

# 建築改修工事特記仕様書

(平成29年改訂版)

※平成30年8月1日以降適用

## I 工事概要

- 1 工事名
- 2 工事場所
- 3 用途地域等
 

都市計画区域	(・内	・外)	
用途地域	(	)	
防火地域等	(・防火	・準防火	・法第22条指定区域
その他の地域・区域	(	)	・指定無し)
- 4 主要用途
- 5 敷地面積 m<sup>2</sup>
- 6 その他の条件
 

垂直積雪量 (m)		風速 (V <sub>0</sub> )	・30	・32	・34
地表面粗度区分	・I	・II	・III		
- 7 改修内容 (対象棟、工事種別、改修部位等)
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

## II 建築改修工事仕様

- 1 共通仕様
 

図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成28年版）」、「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成28年版）」及び「建築物解体工事共通仕様書（平成24年版）」による。
- 2 特記仕様書の適用等
  - (1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。
  - (2) 特記事項は○印の付いたものを適用する。●印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。  
○印と※印が付いた場合は、共に適用する。
  - (3) 特記事項に記載の( )及び〈 〉内表示番号は、それぞれ公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）及び公共建築工事標準仕様書（建築工事編）の当該項目、当該図面又は当該表を示す。
- 3 特記仕様書の範囲
 

特記仕様書は、本特記仕様書の他、以下の○印のものを適用する

  - ・建築工事特記仕様書
  - ・電気設備改修工事特記仕様書
  - ・機械設備改修工事特記仕様書

章	項目	特記事項																						
一般共通事項	1 適用基準等	※建築工事監督実施要領（秋田県建設交通部監修）（平成16年版） ※建築工事施工管理要領（一般社団法人公共建築協会）（平成26年改訂版） ※営繕工事写真撮影要領（平成28年版）（国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課）																						
	2 工事实績情報の登録	※適用する ・適用しない (1. 1. 4)																						
	3 工事の余裕期間	※適用しない ・適用する（・発注者指定方式 ・任意着手方式） 適用する場合は別に定める「余裕期間に係る特記事項」によること。																						
	4 工事写真	<p>工事中、完成時ともカラー写真とする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">分類</th> <th style="width: 25%;">規格</th> <th style="width: 40%;">撮影箇所</th> <th style="width: 20%;">提出部数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>着工前</td> <td>サービス版</td> <td>工事写真の撮り方建築編</td> <td>部</td> </tr> <tr> <td>工事中</td> <td>サービス版</td> <td>工事写真の撮り方建築編</td> <td>部</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">完成時</td> <td>・サービス版</td> <td>工事写真の撮り方建築編</td> <td>部</td> </tr> <tr> <td>・キャビネ版</td> <td>同上</td> <td>部</td> </tr> <tr> <td>営繕年報用</td> <td>・キャビネ版</td> <td>外部1枚、内部1枚</td> <td>部</td> </tr> </tbody> </table> <p>この表のほか監督職員が必要と認め、指示した箇所及び部数。また、上記の写真はデジタル写真も可とし、その仕様等は監督職員の指示による。</p>	分類	規格	撮影箇所	提出部数	着工前	サービス版	工事写真の撮り方建築編	部	工事中	サービス版	工事写真の撮り方建築編	部	完成時	・サービス版	工事写真の撮り方建築編	部	・キャビネ版	同上	部	営繕年報用	・キャビネ版	外部1枚、内部1枚
分類	規格	撮影箇所	提出部数																					
着工前	サービス版	工事写真の撮り方建築編	部																					
工事中	サービス版	工事写真の撮り方建築編	部																					
完成時	・サービス版	工事写真の撮り方建築編	部																					
	・キャビネ版	同上	部																					
営繕年報用	・キャビネ版	外部1枚、内部1枚	部																					

5 概成工期	工事期限より 日前 (1. 2. 1)																																										
6 電気保安技術者	・適用する ※適用しない (1. 3. 3)																																										
7 施工条件	<p>関連工事による施工時期の調整 ・有 (内容: )          ・無</p> <p>施工時期・時間の制限 ※指定しない ・</p> <p>部位別施工順序 ※指定しない ・図示による</p> <p>工事用車両の駐車場所 ・有 (図示) ・無</p> <p>資機材置場所 ・有 (図示) ・無</p> <p>関係機関等との協議の未成立事項 ・有 (内容: )          ・無</p> <p>関係機関等との協議結果 ・有 (内容: )          ・無</p>																																										
8 施工中の安全確保	<p>※「低騒音型・低振動型建設機械の指定に関する規定（平成9年建設省告示第1536号）」に基づき、指定された建設機械を使用する。 (1. 3. 7)</p> <p>※「建設機械に関する技術指針（平成3年建設省通知第247号）」に基づき、指定された排出ガス対策型建設機械を使用する。 (1. 3. 7)</p>																																										
9 発生材の処理等	<p>・特定建設資材廃棄物の発生材の処理 (1. 3. 12)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>再資源化等をする施設名・住所・搬出距離 (km)</th> </tr> <tr> <td>建設発生土</td> <td></td> </tr> <tr> <td>コンクリート塊</td> <td></td> </tr> <tr> <td>アスファルト塊</td> <td></td> </tr> <tr> <td>建設発生木材</td> <td></td> </tr> </table> <p>・特定建設資材廃棄物以外の発生材の処理 (1. 3. 12)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>処分施設の名称・住所・搬出距離 (km)</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・引き渡しを要するもの _____ (1. 3. 12)</p> <p>・現場再利用発生材 _____</p> <p>特別管理産業廃棄物 (・有 ・無) (1. 3. 12)</p> <p>アスベスト含有建材 ・有 ・無</p> <p>受入施設名 (一財) 秋田県総合公社 環境保全局【所在地 大仙市協和上淀川】</p> <p>・飛散性アスベストの使用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>室名</th> <th>使用部位</th> <th>詳細 (厚さ等)</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・非飛散性アスベスト成形板の使用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>室名</th> <th>使用部位</th> <th>詳細 (厚さ等)</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>PCB含有製品の処理</p> <p>PCB (ポリ塩化ビフェニル) 含有機器 ・有 ・無</p> <p>有の場合は、PCBを含有する電気照明器具等の機器から当該部分を取り外し、漏洩の恐れのない安全な容器に納め、所定の表示を行い、監督職員の指示に基づき監督職員に</p> <p>引き渡すこと。</p> <p>PCB含有シーリング材 ・有 ・無 ・不明 (含有分析検査を行う)</p>	種類	再資源化等をする施設名・住所・搬出距離 (km)	建設発生土		コンクリート塊		アスファルト塊		建設発生木材		種類	処分施設の名称・住所・搬出距離 (km)							室名	使用部位	詳細 (厚さ等)	その他									室名	使用部位	詳細 (厚さ等)	その他								
種類	再資源化等をする施設名・住所・搬出距離 (km)																																										
建設発生土																																											
コンクリート塊																																											
アスファルト塊																																											
建設発生木材																																											
種類	処分施設の名称・住所・搬出距離 (km)																																										
室名	使用部位	詳細 (厚さ等)	その他																																								
室名	使用部位	詳細 (厚さ等)	その他																																								

	<p>対象となる石膏ボード製品 ・該当 ・非該当 次に該当する場合は、指定する場所に処分すること。 〈対象となる石膏ボード製品〉 小名浜吉野石膏(株)いわき工場 昭和48年～平成9年4月に製造されたもの 日東石膏ボード(株)八戸工場 平成4年10月～平成9年4月に製造されたもの 指定する処分場所【(財)秋田県総合公社環境保全局 所在地大仙市協和上淀川】 参考：廃石膏ボード現場分別解体マニュアル(案)(平成24年3月国土交通省)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本工事で発生する建設廃棄物のうち、県内の最終処分場に搬入する建設廃棄物については、秋田県産業廃棄物税が課税されるので適正に処理するものとする</li> <li>・秋田県建設副産物対策に係わる取扱い要領に基づき、工事着手前に再生資源利用計画書及び再生資源利用促進計画書を、また工事完成時に同計画書の実施書を監督職員に提出するものとする。(1.3.12)</li> </ul>
10 交通安全管理	<p>関係機関との協議 (1.3.9)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要(関係機関： ) ・必要なし</li> </ul> <p>交通誘導員</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配置する(・警備業法第18条に規定する特定の種別の警備業務 ・任意 ) ( 人・日)</li> <li>・配置しない</li> </ul> <p>特定の種別の警備業務は、警備員等の検定等に関する規則(平成17年国家公安委員会規則第20号)及び秋田県公安委員会告示第144号(平成18年10月6日)による。</p>
11 事故報告	<p>工事施工中に事故・災害が発生した場合は、直ちに監督職員に通報するとともに、事故の全容が判明次第、指示する事故報告書により速やかに監督職員に提出すること。(1.3.10)</p>
12 既存部分の処置	<p>既存部分の養生 ・必要(養生部分 ) ・必要なし (1.3.13)</p>
13 建築材料等	<p>※本工事に使用する材料は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、以下のいずれかに該当するものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 J I S及びJ A Sマーク表示のある材料</li> <li>2 エコマーク認定製品((公財)日本環境協会)</li> <li>3 秋田県認定リサイクル製品</li> <li>4 建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿(最新年版)((一社)公共建築協会)(以下「評価名簿」という。)に記載の製品</li> <li>5 以下の①～⑥の事項を満たす材料製造業者等が製造した材料 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 品質及び性能に関する試験データが整備していること。</li> <li>② 生産施設及び品質の管理が適切に行っていること。</li> <li>③ 安定的な供給が可能であること。</li> <li>④ 法令等で定める許可、認定又は免許を取得していること。</li> <li>⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。</li> <li>⑥ 販売、保守等の営業体制が整えられていること。</li> </ol> </li> </ol> <p>なお、5の材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は、外部機関が発行する資料等の写しを監督職員に提出をして承諾をうけるものとする。</p> <p>また、商品名等が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受けること。</p>
14 化学物質を放散する建築材料等	<p>建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の(1)から(4)までを満たすものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びスチレンを放散しない又は放散が極めて少ない材料で設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。</li> <li>(2) 接着材及び塗料はトルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。</li> <li>(3) 接着剤は、可塑剤(フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含む難揮発性の可塑剤を除く)が添加されていない材料を使用する。</li> <li>(4) (1)の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びスチレンを放散しないか、放散が極めて少ない材料を使用したものとする。</li> </ol>

	<p>設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分において、「規制対象外」とは次の①又は②に該当する材料を指し、同区分「第三種」とは次の③又④に該当する材料を指す。</p> <p>① 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第一種、第二種及び第三種ホルムアルデヒド発散建築材料以外の材料</p> <p>② 建築基準法施行令第20条の7第4項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料</p> <p>③ 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料</p> <p>④ 建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料</p>												
15 特別な材料の工法	建築改修工事標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、材料製造所の指定する工法によるものとする。												
16 施工調査	<p>施工数量調査 (1. 5. 2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>調査項目</th> <th>調査範囲</th> <th>調査方法</th> <th>成果品</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・既存部分の破壊を行った場合の補修方法は、図示による。(1. 5. 3)</p>	調査項目	調査範囲	調査方法	成果品								
調査項目	調査範囲	調査方法	成果品										
17 技能士	<p>※適用する (1. 6. 2)</p> <p>適用職種（一級、単一等級の職種作業）</p> <p>とび（・とび作業） 鉄筋施工（・鉄筋組立作業） コンクリート圧送施工（・コンクリート圧送工事作業） 型枠施工（・型枠工事作業） 鉄骨（・構造物鉄工作業） ブロック建築（・コンクリートブロック工事作業） ALCパネル施工（・ALCパネル工事作業） 防水施工（・アスファルト防水工事作業・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業・アクリルゴム系塗膜防水工事作業・合成ゴム系シート防水工事作業・塩化ビニル系シート防水工事作業・セメント系防水工事作業・シーリング防水工事作業・改質アスファルトシートトーチ工法防水工事作業・FRP防水工事作業） 石材施工（・石張り作業） タイル張り（・タイル張り作業） 建築大工（・大工工事作業） 建築板金（内外装板金作業） 左官（・左官作業） 内装仕上げ施工（・鋼製下地工事作業） サッシ施工（・ビル用サッシ施工作業） 自動ドア施工（・自動ドア施工） ガラス施工（・ガラス工事作業） カーテンウォール施工（・金属製カーテンウォール工事作業） 塗装（・建築塗装作業） 内装仕上げ施工（・プラスチック系床仕上げ工事作業・カーペット系床仕上げ工事作業・木質系床仕上げ工事作業・ボード仕上げ工事作業） 表装（・壁装作業） 熱絶縁施工（・吹付け硬質ウレタンフォーム断熱工事作業） 内装仕上げ施工（・カーテン工事作業） 路面標示施工（・溶融ペイントハンドマーカール工事作業・加熱ペイントマシンマーカール工事作業） 造園（・造園工事作業）</p> <p>・適用しない</p>												
18 見本施工	<p>仕上がり程度の判断ができる見本施工の実施 (1. 6. 5)</p> <p>・実施する（実施する部位：）</p> <p>・実施しない</p>												
19 揮発性有機化合物等の室内濃度の測定	<p>次の室の揮発性有機化合物等の室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督職員に報告すること。(1. 6. 9)</p> <p>・測定対象化合物質 ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレン</p> <p>・測定対象室 測定対象室</p> <p>測定対象室は、原則として全ての居室及び常時換気をしない書庫、倉庫等（改修工事においては、内装改修等を行った室に限る）とする。使用した材料、室の形状、換気設備等の使用が類似しており同様の測定結果となることが予想される複数の室については、そのうち1室以上を測定してよい。</p> <p>・測定個所数 測定個所数は、次による。また、全ての測定個所においてホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン及びスチレンの濃度を同時に測定する。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>室の床面積A (㎡)</th> <th>A ≤ 50</th> <th>50 &lt; A ≤ 200</th> <th>200 &lt; A ≤ 500</th> <th>500 &lt; A</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>測定個所数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>・測定方法 測定は、パッシブ型採取機器を用いる。 採取機器、及び採取要領については監督職員の指示による。</p>	室の床面積A (㎡)	A ≤ 50	50 < A ≤ 200	200 < A ≤ 500	500 < A	測定個所数	1	2	3	4		
室の床面積A (㎡)	A ≤ 50	50 < A ≤ 200	200 < A ≤ 500	500 < A									
測定個所数	1	2	3	4									
20 技術検査	<p>・中間検査 ※実施する ・実施しない (1. 7. 2)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>中間検査の時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第2回</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	回数	中間検査の時期	第1回		第2回							
回数	中間検査の時期												
第1回													
第2回													

21 完成図書等	<p>完成図書 ※製本1部 (1. 8. 1)</p> <p>製本する完成図書は、A4版（黒表紙、金文字）とする。 完成図書に綴じこむもの ※完成図（意匠図及び構造図） ・施工図 ・構造計算書 ※主要資材メーカーリスト ※保証書 ※保守、保全に関する説明書 ※電子納品対象工事にあつてはCD-R ※その他監督職員の指示するもの</p> <p>添付するもの ※A3版縮小原図（配置図、平面図、立面図、仕上表、一般断面図）とする。</p>
22 電子納品等	<p>・電子納品対象工事 ・電子納品対象外工事 CD-R（監督職員提出用） （ 部 ）</p> <p>CD-Rに格納するもの ※完成図（※CAD ※PDF） ※監督職員が指示した図面等 ※完成写真（※外観図5枚程度 ※内観図5枚程度） ※工事概要ファイル</p> <p>受注者は、次により電子納品を行うものとする。 ただし、監督職員の承諾があつた場合はこの限りでない。</p> <p>(1) 完成図等は、「官庁営繕事業に係わる電子納品運用ガイドライン（営繕工事編）、営繕工事電子納品要領【平成24年版 国土交通省大臣官房官庁営繕部】」、「官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン（案）等の運用の改正について（平成26年4月 25日付け第85号）」（以下、「要領等」という。）に基づいて作成すること。 「要領等」で特に記載のない項目については、原則として電子データを提出する義務はないが、解釈に疑義がある場合は監督職員と協議の上、電子化の是非を決定するものとする。</p> <p>(2) 電子データは、「要領等」に示されたファイルフォーマットに基づいて作成すること。</p> <p>(3) 設計監理業務として行う営繕年報作成のため、工事諸元情報の提供に協力すること。</p>
23 設備工事との取合い	<p>施工範囲 建築工事特記仕様書の区分表又は工事区分表（図示）による。 施工図 設備機器の位置、取合い等の検討できる施工図を提出し、<u>監督職員</u>の承諾を受ける。</p>
24 かし点検	<p>※適用する ・適用しない 契約事項によるかし担保期間満了前にかし点検を行うので受注者は立ち会うこと。</p>
25 環境への配慮	<p>秋田県は県の事務事業において、環境にやさしい行動が定着することを目指し、環境に与える負荷を低減する取り組みを継続的に推進するため「あきたエコマネジメントシステム」を構築し運用している。受注者は監督職員と協議を行い、県の定める環境方針を具体的に公共事業に反映させるよう努めなければならない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">秋田県庁環境方針</p> <p style="text-align: right;">平成25年4月1日</p> <p>秋田県庁は自らが行う事務事業活動が環境に及ぼす影響を継続的に改善していくため、次の方針に基づき積極的に行動します。</p> <p>(1) 総合的な環境保全施策の推進 「自然と人との共存可能な社会の構築」、「環境への負荷の少ない循環を基調とした社会の構築」、「地球環境保全への積極的な取り組み」、「環境保全に向けての全ての主体の参加」を基本としながら、第二次秋田県環境基本計画に掲げる環境保全施策を推進します。</p> <p>(2) 事業活動における積極的な環境配慮の実施 公共事業の実施において、公共事業環境配慮システムを基に、環境に配慮した事業を実施し、環境負荷の低減に努めます。</p> <p>(3) 秋田県庁環境保全率先実行計画の推進（省略）</p> <p>(4) 環境関連法規等の順守 環境に関する法令、条例、協定、その他の合意事項を順守し、環境汚染の防止に努めます。</p> </div>

2 仮設 工事	1 仮囲い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設ける（位置、延長等は図示）</li> <li>・設けない</li> <li>・万能鋼板（H＝ ）</li> <li>・波板鉄板（H＝ ）</li> <li>・単管シート（H＝ ）</li> <li>・シートゲート（H＝ 、W＝ ）× カ所</li> </ul>																	
	2 足場その他	<p>内部足場 ※脚立、足場板等 (2. 2. 1)</p> <p>外部足場 ※ 枠組足場（※ 手すり先行工法 ・ その他） (2. 2. 1)</p> <p>・ くさび緊結式足場（※ 手すり先行工法 ・ その他）</p> <p>足場を設ける場合は、「手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月策定）」により、設置については「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」によるものとする。</p> <p>防護シート ※設ける ・ 設けない</p> <p>材料の運搬 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種 (2. 2. 1)</p>																	
	3 既存部分の養生	<p>既存部分の養生 (2. 3. 1)</p> <p>※ビニールシート等 ・</p> <p>既存家具等の養生</p> <p>※ビニールシート等 ・</p> <p>備品、机・ロッカー等の移動</p> <p>・ 行う（図示） ※行わない</p> <p>既存ブラインド、カーテン等養生及び保管場所</p> <p>・ 養生を行う ・ 養生を行わない</p> <p>養生の方法：</p> <p>保管場所：</p>																	
	4 仮設間仕切り	<p>仮設間仕切り (2. 3. 2)</p> <p>・ 設ける ・ A種 ・ B種 ※C種 （詳細は図示）</p> <p>※設けない</p> <p>仮設扉</p> <p>・ 設ける ※合板張り木製扉 ・ （詳細は図示）</p> <p>※設けない</p>																	
	5 監督職員事務所	<p>・ 設ける ・ 設けない (2. 4. 1)</p> <p>・ 10㎡程度 ・ 20㎡程度 ・ 35㎡程度 ・ 65㎡程度 ・ 100㎡程度</p> <p>・ 受注者事務所の中に監督職員用スペース ㎡程度確保する。</p> <p>備品は下記のものを用意する。</p> <p>机、いす、電話、書棚、黒板、ゴム長靴、雨合羽、保安帽、安全帯、冷暖房機器、その他監督職員の指示するもの</p> <p>・ 縮小製本図（ ）部</p>																	
	6 工事用水及び電力	<p>工事用水 構内既存の施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用できる（※有償 ・ 無償）</li> <li>・ 利用できない</li> </ul> <p>工事用電力 構内既存の施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用できる（※有償 ・ 無償）</li> <li>・ 利用できない</li> </ul>																	
	7 工事表示板の設置	<p>監督職員が指定する位置に一箇所設置する。 (2. 4. 1)</p> <p>表示時期は工事着工時から完成時までとする。</p> <p>表示板の形式</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2">建築工事の表示</th> </tr> <tr> <td>工 事 名 称</td> <td></td> </tr> <tr> <td>構 造 ・ 規 模</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工 事 期 間</td> <td>平 成 年 月 日 ～ 平 成 年 月 日</td> </tr> <tr> <td>建 築 主</td> <td></td> </tr> <tr> <td>設 計 者</td> <td></td> </tr> <tr> <td>工 事 監 理 者</td> <td>(外注委託の場合、記入)</td> </tr> <tr> <td>工 事 監 督 者</td> <td>秋 田 県 建 設 部 営 繕 課 又 は 地 域 振 興 局 建 設 部</td> </tr> <tr> <td>工 事 施 工 者</td> <td></td> </tr> </table> <p>注 1 表示板は、風圧に耐えるよう配慮すること。</p> <p>2 地色は、マンセル記号1GY7. 5/8とし黒文字（角ゴシック）で表現する。</p> <p>3 建築主は、契約担当者名とすること。</p> <p>4 表示板の大きさ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※ 1号（横 180 cm×縦 90 cm）</li> <li>・ 2号（横 240 cm×縦 120 cm）</li> <li>・ 3号（横 360 cm×縦 180 cm）</li> <li>・ その他（ ）</li> </ul> <p>※ 建設リサイクル法遵守指導としての「届出（通知）済シール」を建設業許可標識等に貼り付けること。</p>	建築工事の表示		工 事 名 称		構 造 ・ 規 模		工 事 期 間	平 成 年 月 日 ～ 平 成 年 月 日	建 築 主		設 計 者		工 事 監 理 者	(外注委託の場合、記入)	工 事 監 督 者	秋 田 県 建 設 部 営 繕 課 又 は 地 域 振 興 局 建 設 部	工 事 施 工 者
建築工事の表示																			
工 事 名 称																			
構 造 ・ 規 模																			
工 事 期 間	平 成 年 月 日 ～ 平 成 年 月 日																		
建 築 主																			
設 計 者																			
工 事 監 理 者	(外注委託の場合、記入)																		
工 事 監 督 者	秋 田 県 建 設 部 営 繕 課 又 は 地 域 振 興 局 建 設 部																		
工 事 施 工 者																			

	8 工事現場のイメージアップ	・ 行う ※行わない 建物のイメージがわかるようパース等を活用して表示する。 (サイズ 1,800×900 カラーコピーラミネート加工程度)																									
3 防水改修工事	1 降雨等に対する養生方法	※改修標仕 3.1.3(e) (1)～(3)による	(3.1.3)																								
	2 既存防水層の処理	<p>既存保護層の撤去</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行う (範囲・図示による)</li> <li>・ 行わない</li> </ul> <p>既存防水層の撤去</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行う (範囲・図示による)</li> <li>・ 行わない</li> </ul> <p>改修用ドレン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設ける (POAS, POASI, POD, PODI, POS, POSI, POX 工法の場合) 主防水材製造所の仕様による</li> </ul> <p>既存下地の補修及び処置</p> <p>補修箇所の形状、長さ、数量等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※図示による</li> </ul> <p>既存露出防水層表面の仕上げ塗装の除去</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行う (・M4AS ・M4ASI ・M4C ・M4DI ・L4X )</li> <li>・ 行わない</li> </ul> <p>既存保護層の補修及び処置 (POS 工法及び POSI 工法 (機械的固定工法))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした立ち上り部等の補修及び処置 ※改修標仕 3.2.6(d) (3) (vii) ①～③による</li> </ul> <p>架台回り等の処置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※図示による</li> </ul>	(3.2.3) (3.2.4) (3.2.5) (3.2.6)																								
	3 アスファルト防水	<p>屋根保護防水</p> <p>防水層の種類別</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>種別</th> <th>施工箇所</th> <th>断熱材</th> <th>絶縁用シート</th> <th>立上り部の保護</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ P2A</td> <td>・ A-1 ※A-2 ・ A-3</td> <td></td> <td rowspan="2">/</td> <td rowspan="2">※ポリエチレンフィルム 厚さ 0.15mm 以上</td> <td rowspan="2">・ 乾式保護材 ・ コンクリート押え</td> </tr> <tr> <td>・ P1B</td> <td>・ B-1 ※B-2 ・ B-3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ P2AI</td> <td>・ AI-1 ※AI-2 ・ AI-3</td> <td></td> <td rowspan="2">(材質) ※JIS A 9521 による押出法ボリスチレンフォーム断熱材 3 種 bA (スキン層付き) 又は JIS A 9511 による A 種押出法ボリスチレンフォーム保温材の保温版 3 種 b (スキンあり)</td> <td rowspan="2">※フラットヤーンクロス 70g/㎡ 程度</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>・ P1BI ・ T1BI</td> <td>・ BI-1 ※BI-2 ・ BI-3</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	工法	種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート	立上り部の保護	・ P2A	・ A-1 ※A-2 ・ A-3		/	※ポリエチレンフィルム 厚さ 0.15mm 以上	・ 乾式保護材 ・ コンクリート押え	・ P1B	・ B-1 ※B-2 ・ B-3		・ P2AI	・ AI-1 ※AI-2 ・ AI-3		(材質) ※JIS A 9521 による押出法ボリスチレンフォーム断熱材 3 種 bA (スキン層付き) 又は JIS A 9511 による A 種押出法ボリスチレンフォーム保温材の保温版 3 種 b (スキンあり)	※フラットヤーンクロス 70g/㎡ 程度		・ P1BI ・ T1BI	・ BI-1 ※BI-2 ・ BI-3		(3.1.4) (3.3.2～5)
工法	種別	施工箇所	断熱材	絶縁用シート	立上り部の保護																						
・ P2A	・ A-1 ※A-2 ・ A-3		/	※ポリエチレンフィルム 厚さ 0.15mm 以上	・ 乾式保護材 ・ コンクリート押え																						
・ P1B	・ B-1 ※B-2 ・ B-3																										
・ P2AI	・ AI-1 ※AI-2 ・ AI-3		(材質) ※JIS A 9521 による押出法ボリスチレンフォーム断熱材 3 種 bA (スキン層付き) 又は JIS A 9511 による A 種押出法ボリスチレンフォーム保温材の保温版 3 種 b (スキンあり)	※フラットヤーンクロス 70g/㎡ 程度																							
・ P1BI ・ T1BI	・ BI-1 ※BI-2 ・ BI-3																										

改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※改修標準仕様書表 3.3.3 から表 3.3.9 による

部分粘着層付き改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ

※改修標準仕様書表 3.3.3 から表 3.3.9 による

平場の保護コンクリート厚さ

- ・ こて仕上げ ※水下 80mm 以上
- ・ 床タイル張り等の仕上げ ※水下 60mm 以上

押え金物の材質及び形状寸法 ※アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm)

絶縁用シートに使用する材料

- ・ 屋根保護防水工法 ※ポリエチレンフィルム (厚さ 0.15mm 以上)
- ・ 屋根保護防水断熱工法 ※フラットヤーンクロス (70g/m<sup>2</sup>)

(3.3.2)(3.3.5)

立上り部の保護

- ・ 乾式保護材 ( )
- ・ れんが ( ・ 普通れんが ・ 化粧れんが )
- ・ コンクリート ( 工法)

屋根露出防水

防水層の種類

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		備考
				種類	使用量	
・ M4C	・ C-1 ※C-2 ・ C-3 ・ C-4			・ 製造所の指定による	・ 製造所の指定による	
・ M3D ・ POD	・ D-1 ※D-2 ・ D-3 ・ D-4			・ 製造所の指定による	・ 製造所の指定による	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない
・ PODI ・ M3DI ・ M4DI	・ DI-1 ※DI-2		(材質) ※JIS A 9521 による硬質ウレタンフォーム断熱材 2 種 1 号若しくは 2 号で透湿係数を除く規格に適合するもの又は JIS A 9511 による A 種硬質ウレタンフォーム保温材の保温版 2 種 1 号若しくは 2 号で透湿係数を除く規格に適合するもの (厚さ) ・ 25mm	・ 製造所の指定による	・ 製造所の指定による	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドレン ・ 設ける ・ 設けない

脱気装置の種類及び設置数量

※アスファルトルーフィング類製造所の指定による

屋根露出防水絶縁断熱工法の断熱材ルーフトレンドレン回り及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置

※図示



4 改質アスファルトシート防水

屋内防水

防水層の種類別

工法	種別	施工箇所	備考
・ P1E ・ P2E	・ E-1 ※E-2		保護層 ・ 設ける ・ 設けない

押え金物の材質及び形状寸法

※アルミニウム製 L-30×15×2.0(mm)程度

屋上排水溝

- ・ 適用する (施工範囲 ・ 図示 ・ )
- ・ 適用しない

(3. 1. 4) (3. 4. 2、3)

防水層の種類別

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		備考
				種類	使用量	
・ M4AS	・ AS-T1		/	・ 製造所の指定による	・ 製造所の指定による	・
	・ AS-T2					
	・ AS-J2					
・ M3AS ・ POAS	・ AS-T3		/	・ 製造所の指定による	・ 製造所の指定による	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドリル ・ 設ける ・ 設けない
	・ AS-T4					
	・ AS-J1					
	・ AS-J3					
・ M3ASI ・ M4ASI ・ POASI	・ ASI-T1		(材質) ※JIS A 9521 による 硬質ウレタンフォーム断熱材 2 種 1 号若しくは 2 号で透湿係数を除く規格に適合するもの又は JIS A 9511 による A 種硬質ウレタンフォーム保温材の保温版 2 種 1 号若しくは 2 号で透湿係数を除く規格に適合するもの ・ (厚さ) ・ 25mm ・	・ 製造所の指定による	・ 製造所の指定による	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない 改修用ドリル ・ 設ける ・ 設けない 防湿層 ・ 設ける ・ 設けない
	・ ASI-J1					

改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※改修標準仕様書表 3. 4. 1 から表 3. 4. 3 による

粘着層付改質アスファルトシート及び部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ

※改修標準仕様書表 3. 4. 1 から表 3. 4. 3 による

脱気装置の種類及び設置数量

※改質アスファルトシート製造所の指定による

5 合成高分子ルーフィングシート防水

(3. 1. 4) (3. 5. 2~4)

防水層の種類

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		備考
				種類	使用量	
・ POS ・ S4S	・ S-F1		/	・ 製造所の指定による	・ 製造所の指定による	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない
	・ S-F2					
	・ S-M1					
	・ S-M2					
	・ S-M3					
・ S3S	・ S-F1		/	・ 製造所の指定による	・ 製造所の指定による	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない
	・ S-F2					
・ M4S	・ S-M1		/	・ 製造所の指定による	・ 製造所の指定による	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない
	・ S-M2					
	・ S-M3					
・ POSI ・ S3SI ・ S4SI ・ M4SI	・ SI-F1		(材質) ※改修標準仕様書 3.5.2(c)(3)(ii) による ・ (厚さ)・25mm	・ 製造所の指定による	・ 製造所の指定による	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない
	・ SI-F2					
	・ SI-M1					
	・ SI-M2					

屋内防水

防水層の種類

種別	施工箇所	保護層			
		平場のモルタル塗り			立上り部の保護モルタル塗り厚さ
		塗り厚さ	・ 床塗り工法	・ 下地モルタル塗り	
・ S-C1	・	・	※改修標準仕様書 6.15.6(b)(2)及び(3) に準ずる ・	※改修標準仕様書 6.15.6(C)(1)に準ずる ・	※7mm以下 ・

屋内防水で平場を保護コンクリート仕上げとする場合の厚さ

ルーフィングシートの種類及び厚さ

※改修標準仕様書表 3.5.1 から表 3.5.3 による

絶縁シートの材質

※発泡ポリエチレンシート

固定金具の材質及び寸法形状

※厚さ 0.4mm 以上で防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板及びそれらの片面又は両面に樹脂を積層加工した鋼板

脱気装置の種類及び設置数量

※ルーフィングシート製造所の指定による

既存防水下地が PC コンクリート部材及び ALC

パネル下地で種別 S-C1 の場合の目地処理

・行う ( 図示 ) ・行わない

PC コンクリート部材の入隅部の増張り

(種別 S-F1、S-I-F1、S-C1 の場合)

・行う ( 図示 ) ・行わない

ALC パネル下地の入り隅部の増張り (種別 S-C1 の場合)

・行う ( 図示 ) ・行わない

機械的固定工法の場合の一般部のルーフィングシートの張り付け

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

(3. 6. 2、3)

6 塗膜防水

防水層の種別

工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料		備考
				種類	使用量	
・ P0X	※X-1 ・ X-2			・ 製造所の指定による	・ 製造所の指定による	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない
・ L4X	・ X-1 ※X-2			・ 製造所の指定による	・ 製造所の指定による	脱気装置 ・ 設ける ・ 設けない
・ P1Y	※Y-2 ・			/	/	保護層 ・ 設ける ・ 設けない
・ P2Y	※Y-2 ・			/	/	保護層 ・ 設ける ・ 設けない

脱気装置の種類及び設置数量

※主材料製造所の指定による

(3. 7. 2、3、7、8)

7 シーリング

シーリング改修工法の種類

- ・ シーリング充填工法
- ・ シーリング再充填工法
- ・ 拡幅シーリング再充填工法
- ・ ブリッジ工法

ボンドプレーカー張り

・ 適用する

・ 適用しない

エッジング材張り

・ 適用する

・ 適用しない

シーリング材の種類、施工箇所

下表以外は、改修標準仕様書表 3.7.1

施工箇所	シーリング材の種類（記号）

シーリング材の目地寸法

※改修標準仕様書 3.7.3(a) (1)～(3)

シーリング材の試験

※簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験

8 とい

(3.8.2、3)

といの材種 ・ 配管用鋼管 ・ 硬質ポリ塩化ビニル管

防露材のホルムアルデヒドの放散量 ※F☆☆☆☆

既存のといその他の撤去及び降雨等に対する養生方法 ※図示

鋼管製といの防露巻き ※改修標準仕様書表 3.8.5 による

たてどい受金物の取付け ※図示

ルーフドレンの取付け ※改修標準仕様書 3.8.3(h) による

9 アルミウム製笠木

(3.9.2、3)

種類 ・ オープン形式（ ・ 押出 250 形 ・ 押出 300 形 ・ 押出 350 形）  
 ・ 板材折曲げ形（ ・ オープン形式 ・ シール形式）  
 本体幅（ ） mm 板厚（※2.0mm ） mm

表面処理 種別（ ）種

既存笠木等の撤去 ・ 行う（範囲 ・ 図示 ）  
 ・ 行わない

下地補修の工法 ※図示

板材折曲げ形笠木の取付方法 ※図示

建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重に対応した笠木の固定金具の間隔、固定方式等 ※図示

10 施工票

・ 屋根防水工事完了後、仕様、施工業者名、完成年月日を記載した施工票を監督職員の指示する位置に取り付ける。

仕	様	
完	成	年 月 日
施	工	者

施工票は、縦 85mm、横 125mm 程度とする。

4 外壁改修工事 コンクリート打放し仕上げ外壁改修	1 ひび割れ部改修工法	(4. 1. 4) (4. 2. 2) (4. 3. 4~6)											
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹脂注入工法</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">工法の種類</th> <th style="width: 30%;">ひび割れ幅 (mm)</th> <th style="width: 20%;">注入口間隔 (mm)</th> <th style="width: 20%;">注入量 (mL/m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※自動式低圧工<sup>ホ</sup>キ樹脂注入工法</td> <td>・ 0.2以上～1.0以下 ・</td> <td>・ 250～300 ・</td> <td>・ ・</td> </tr> <tr> <td>・ 手動式工<sup>ホ</sup>キ樹脂注入工法 ・ 機械式工<sup>ホ</sup>キ樹脂注入工法</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <p>エポキシ樹脂      ・ 低粘度形      ・ 中粘度形  コアの抜き取り検査      ・ 行う      ・ 行わない  抜き取り個数      ※長さ 500m ごと及びその端数につき 1 個      ・  抜き取り部の補方法      ※図示      ・</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Uカットシーリング材充填工法</li> <li>・ シーリング材  充填材料      ※ 1 成分形又は 2 成分形ポリウレタン系      ・  ポリマーセメントモルタルの充填      ・ 行う      ・ 行わない</li> <li>・ 可とう性エポキシ樹脂</li> <li>・ シール工法</li> <li>・ パテ状エポキシ樹脂</li> <li>・ 可とう性エポキシ樹脂</li> </ul>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※自動式低圧工 <sup>ホ</sup> キ樹脂注入工法	・ 0.2以上～1.0以下 ・	・ 250～300 ・	・ ・	・ 手動式工 <sup>ホ</sup> キ樹脂注入工法 ・ 機械式工 <sup>ホ</sup> キ樹脂注入工法	・	・
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)										
※自動式低圧工 <sup>ホ</sup> キ樹脂注入工法	・ 0.2以上～1.0以下 ・	・ 250～300 ・	・ ・										
・ 手動式工 <sup>ホ</sup> キ樹脂注入工法 ・ 機械式工 <sup>ホ</sup> キ樹脂注入工法	・	・	・										
2 欠損部改修工法	(4. 1. 4) (4. 2. 2) (4. 3. 7)												
	<ul style="list-style-type: none"> <li>※充填工法</li> <li>・ エポキシ樹脂モルタル      ・ ポリマーセメントモルタル</li> <li>・</li> </ul>												
4 外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ外壁改修	1 ひび割れ部改修工法	(4. 1. 4) (4. 2. 2) (4. 4. 5~7)											
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・樹脂注入工法</li> </ul> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">工法の種類</th> <th style="width: 30%;">ひび割れ幅 (mm)</th> <th style="width: 20%;">注入口間隔 (mm)</th> <th style="width: 20%;">注入量 (mL/m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※自動式低圧工<sup>ホ</sup>キ樹脂注入工法</td> <td>・ 0.2以上～1.0以下 ・</td> <td>・ 250～300 ・</td> <td>・ ・</td> </tr> <tr> <td>・ 手動式工<sup>ホ</sup>キ樹脂注入工法 ・ 機械式工<sup>ホ</sup>キ樹脂注入工法</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <p>エポキシ樹脂      ・ 低粘度形      ・ 中粘度形  コアの抜き取り検査      ・ 行う      ・ 行わない  抜き取り個数      ※長さ 500m ごと及びその端数につき 1 個      ・  抜き取り部の補方法      ※図示      ・</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Uカットシーリング材充填工法</li> <li>・ シーリング材  充填材料      ※ 1 成分形又は 2 成分形ポリウレタン系      ・  ポリマーセメントモルタルの充填      ・ 行う      ・ 行わない</li> <li>・ 可とう性エポキシ樹脂</li> <li>・ シール工法</li> <li>・ パテ状エポキシ樹脂</li> <li>・ 可とう性エポキシ樹脂</li> </ul>	工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※自動式低圧工 <sup>ホ</sup> キ樹脂注入工法	・ 0.2以上～1.0以下 ・	・ 250～300 ・	・ ・	・ 手動式工 <sup>ホ</sup> キ樹脂注入工法 ・ 機械式工 <sup>ホ</sup> キ樹脂注入工法	・	・
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (mL/m)										
※自動式低圧工 <sup>ホ</sup> キ樹脂注入工法	・ 0.2以上～1.0以下 ・	・ 250～300 ・	・ ・										
・ 手動式工 <sup>ホ</sup> キ樹脂注入工法 ・ 機械式工 <sup>ホ</sup> キ樹脂注入工法	・	・	・										

2 欠損部改修工法

(4. 1. 4) (4. 2. 2) (4. 4. 8、9)

- ・充填工法
  - ・エポキシ樹脂モルタル
  - ・ポリマーセメントモルタル
- ・モルタル塗換え工法
  - 既製目地材
  - ・使用する（形状）
  - ・使用しない
  - 仕上厚又は全塗厚が 25mm を超える場合の処置 ※図示

3 浮き部改修工法

(4. 1. 4) (4. 2. 2) (4. 4. 10～15)

工法	アンカーピンの本数(本/㎡)		注入口の箇所数(箇所/㎡)		充填量 (mL/箇所)	注入力 (mL/箇所)
	一般部	指定部	一般部	指定部		
・アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	—	—	※25	—
・アンカーピンニング全面エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	—	※25
・アンカーピンニング全面ポリマーモントスリウ-注入工法	※13	※20	※12	※20	—	※50
・注入口付アンカーピンが部分球樹脂注入工法	※9	※16	—	—	※25	—
・注入口付アンカーピンが全面球樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	—	※25
・注入口付アンカーピンが全面ポリマーモントスリウ-注入工法	※9	※16	※9	※16	—	※50
・充填工法	—	—	—	—	—	—
・モルタル塗替え工法	—	—	—	—	—	—

アンカーピン

※ステンレス鋼（SUS304）呼び径 4mm の丸棒で全ネジ切り加工をしたもの

注入口付きアンカーピン

※ステンレス鋼（SUS304）呼び径外径 6mm

充填工法 ・エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル

モルタル塗換え工法

既製目地材 ・使用する（形状） ・使用しない  
仕上厚又は全塗厚が 25mm を超える場合の処置 ※図示

4 1 ひび割れ部改修工法

(4. 1. 4) (4. 2. 2) (4. 5. 5、6)

・樹脂注入工法

工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入力 (mL/m)
※自動式低圧球 <sup>®</sup> 樹脂注入工法	・ 0.2以上～1.0以下	・ 250～300	・
・ 手動式球 <sup>®</sup> 樹脂注入工法	・	・	・
・ 機械式球 <sup>®</sup> 樹脂注入工法	・	・	・

エポキシ樹脂 ・低粘度形 ・中粘度形

コアの抜き取り検査 ・行う ・行わない

抜き取り個数 ※長さ 500m ごと及びその端数につき 1 個

抜き取り部の補方法 ※図示

・Uカットシール材充填工法

・シーリング材

充填材料 ※1 成分形又は 2 成分形ポリウレタン系 ・ポリマーセメントモルタルの充填 ・行う ・行わない

・可とう性エポキシ樹脂

外壁改修工事  
タイル張り仕上げ外壁改修

2 欠損部改修工法	(4. 1. 4)(4. 2. 2)(4. 5. 7、8)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タイル部分張替え工法 <ul style="list-style-type: none"> <li>接着材の種類 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポリマーセメント</li> <li>・ JIS A 5557 による一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系</li> <li>・ JIS A 5557 による一液反応硬化形ウレタン樹脂系</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・ タイル張替え工法 <ul style="list-style-type: none"> <li>接着材の種類 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポリマーセメント</li> <li>・ JIS A 5557 による一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系</li> <li>・ JIS A 5557 による一液反応硬化形ウレタン樹脂系</li> </ul> </li> <li>伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地位置 <ul style="list-style-type: none"> <li>※改修標準仕様書表 4.5.1 による</li> </ul> </li> <li>タイル張り下地等の下地モルタルの接着力試験 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行う</li> <li>・ 行わない</li> </ul> </li> <li>・ セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り</li> <li>タイル張りの工法 <ul style="list-style-type: none"> <li>外装タイル <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 密着張り</li> <li>・ 改良積上げ張り</li> <li>・ 改良圧着張り</li> </ul> </li> <li>ユニットタイル <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マスク張り</li> <li>・ モザイクタイル張り</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・ 有機系接着剤による陶磁器質タイル張り</li> <li>シーリング材の種類 <ul style="list-style-type: none"> <li>打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 <ul style="list-style-type: none"> <li>※ポリウレタン系</li> </ul> </li> <li>伸縮調整目地その他の目地 <ul style="list-style-type: none"> <li>※変成シリコーン系</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>
アンカーピン	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径 4mm の丸棒で全ネジ切り加工をしたもの</li> </ul>
注入口付きアンカーピン	<ul style="list-style-type: none"> <li>※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径外径 6mm</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ タイル部分張替え工法 <ul style="list-style-type: none"> <li>接着材の種類 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポリマーセメント</li> <li>・ JIS A 5557 による一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系</li> <li>・ JIS A 5557 による一液反応硬化形ウレタン樹脂系</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・ タイル張替え工法 <ul style="list-style-type: none"> <li>接着材の種類 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ポリマーセメント</li> <li>・ JIS A 5557 による一液反応硬化形変成シリコーン樹脂系</li> <li>・ JIS A 5557 による一液反応硬化形ウレタン樹脂系</li> </ul> </li> <li>伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地位置 <ul style="list-style-type: none"> <li>※改修標準仕様書表 4.5.1 による</li> </ul> </li> <li>タイル張り下地等の下地モルタルの接着力試験 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行う</li> <li>・ 行わない</li> </ul> </li> <li>・ セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り</li> <li>タイル張りの工法 <ul style="list-style-type: none"> <li>外装タイル <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 密着張り</li> <li>・ 改良積上げ張り</li> <li>・ 改良圧着張り</li> </ul> </li> <li>ユニットタイル <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マスク張り</li> <li>・ モザイクタイル張り</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>・ 有機系接着剤による陶磁器質タイル張り</li> <li>シーリング材の種類 <ul style="list-style-type: none"> <li>打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 <ul style="list-style-type: none"> <li>※ポリウレタン系</li> </ul> </li> <li>伸縮調整目地その他の目地 <ul style="list-style-type: none"> <li>※変成シリコーン系</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> </li></ul>
2 目地改修工法	<p>(4. 1. 4)(4. 5. 16)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目地ひび割れ部改修工法</li> <li>・ 伸縮調整目地改修工法</li> <li>伸縮調整目地の位置及び寸法 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 図示</li> </ul> </li> </ul>

	3 タイルの形状、寸法	(4. 2. 2)																																																																			
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">形状寸法</th> <th colspan="3">吸水率による区分</th> <th colspan="2">うわぐすり</th> <th colspan="2">役物</th> <th colspan="2">色</th> <th colspan="2">対薬害性</th> <th rowspan="2">耐滑し性</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>I類</th> <th>II類</th> <th>III類</th> <th>施よう</th> <th>無よう</th> <th>有</th> <th>無</th> <th>標準</th> <th>特注</th> <th>有</th> <th>無</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	施工箇所	形状寸法	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		対薬害性		耐滑し性	備考	I類	II類	III類	施よう	無よう	有	無	標準	特注	有	無																																									
施工箇所	形状寸法	吸水率による区分			うわぐすり		役物		色		対薬害性		耐滑し性	備考																																																							
		I類	II類	III類	施よう	無よう	有	無	標準	特注	有	無																																																									
	試験張り 見本焼き	・行う	・行わない																																																																		
4 外壁改修工事 塗り仕上げ外壁等改修)	1 所要量の確認	(4. 6. 2)																																																																			
		工程ごとの所要量の確認 ※改修標準仕様書表 4. 6. 1による																																																																			
	2 既存塗膜等の除去、 下地処理及び下地調整	(4. 6. 3)																																																																			
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>工法</th> <th>処理範囲</th> <th>下地面の補修</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・サンダー工法</td> <td>※図示</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・高圧水洗工法</td> <td>※図示</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・塗膜はく離剤工法</td> <td>※図示</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・水洗い工法</td> <td>※図示</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table>	工法	処理範囲	下地面の補修	・サンダー工法	※図示	・	・高圧水洗工法	※図示	・	・塗膜はく離剤工法	※図示	・	・水洗い工法	※図示	・																																																				
工法	処理範囲	下地面の補修																																																																			
・サンダー工法	※図示	・																																																																			
・高圧水洗工法	※図示	・																																																																			
・塗膜はく離剤工法	※図示	・																																																																			
・水洗い工法	※図示	・																																																																			
	3 下地調整剤	※下地調整塗材 ・ポリマーセメントモルタル																																																																			
	4 仕上塗材仕上げ	(4. 1. 5) (4. 2. 2) (4. 6. 5) 建物内部に使用する塗料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ ・ 新規仕上塗材の種類																																																																			
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>呼び名</th> <th>防火材料</th> <th>仕上げの形状及び工法等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">・薄付け 仕上塗材</td> <td>・外装薄塗材Si</td> <td>・</td> <td rowspan="6">・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け・ロー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け・こて塗り）</td> </tr> <tr> <td>・可とう形外装薄塗材Si</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・外装薄塗材E</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・可とう形外装薄塗材E</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・防水形外装薄塗材E</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・外装薄塗材S</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・厚付け 仕上塗材</td> <td>・外装厚塗材C</td> <td>・</td> <td rowspan="3">・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する ・適用しない</td> </tr> <tr> <td>・外装厚塗材Si</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・外装厚塗材E</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td rowspan="8">・複層仕 上塗材</td> <td>・複層塗材CE</td> <td>・</td> <td rowspan="8">・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状 耐候性 ※耐候形3種 ・ 上塗材 溶媒 ※水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系 樹脂 ・アクリル系 ・ 外観 ※つやあり ・つやなし ・メタリック</td> </tr> <tr> <td>・複層塗材Si</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・複層塗材E</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・複層塗材RE</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・可とう形複層塗材CE</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・防水形複層塗材CE</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・防水形複層塗材E</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・防水形複層塗材RE</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・防水形複層塗材RS</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">・可とう 形改修用 仕上塗材</td> <td>・可とう形改修塗材E</td> <td>・</td> <td rowspan="3">・平たん状 ・さざ波状 ・ゆず肌状 耐候性 ※耐候形3種 ・ 上塗材 溶媒 ※水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系 樹脂 ・アクリル系 ・ 外観 ※つやあり ・つやなし ・メタリック</td> </tr> <tr> <td>・可とう形改修塗材RE</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・可とう形改修塗材CE</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table>	種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等	・薄付け 仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け・ロー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け・こて塗り）	・可とう形外装薄塗材Si	・	・外装薄塗材E	・	・可とう形外装薄塗材E	・	・防水形外装薄塗材E	・	・外装薄塗材S	・	・厚付け 仕上塗材	・外装厚塗材C	・	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する ・適用しない	・外装厚塗材Si	・	・外装厚塗材E	・	・複層仕 上塗材	・複層塗材CE	・	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状 耐候性 ※耐候形3種 ・ 上塗材 溶媒 ※水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系 樹脂 ・アクリル系 ・ 外観 ※つやあり ・つやなし ・メタリック	・複層塗材Si	・	・複層塗材E	・	・複層塗材RE	・	・可とう形複層塗材CE	・	・防水形複層塗材CE	・	・防水形複層塗材E	・	・防水形複層塗材RE	・	・防水形複層塗材RS	・	・可とう 形改修用 仕上塗材	・可とう形改修塗材E	・	・平たん状 ・さざ波状 ・ゆず肌状 耐候性 ※耐候形3種 ・ 上塗材 溶媒 ※水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系 樹脂 ・アクリル系 ・ 外観 ※つやあり ・つやなし ・メタリック	・可とう形改修塗材RE	・	・可とう形改修塗材CE	・													
種類	呼び名	防火材料	仕上げの形状及び工法等																																																																		
・薄付け 仕上塗材	・外装薄塗材Si	・	・砂壁状 ・ゆず肌状（・吹付け・ロー塗り） ・さざ波状 ・平たん状 ・凹凸状（・吹付け・こて塗り） ・着色骨材砂壁状（・吹付け・こて塗り）																																																																		
	・可とう形外装薄塗材Si	・																																																																			
	・外装薄塗材E	・																																																																			
	・可とう形外装薄塗材E	・																																																																			
	・防水形外装薄塗材E	・																																																																			
	・外装薄塗材S	・																																																																			
・厚付け 仕上塗材	・外装厚塗材C	・	・吹放し ・凸部処理 ・平たん状 ・凹凸状 ・ひき起こし ・かき落とし 上塗材 ・適用する ・適用しない																																																																		
	・外装厚塗材Si	・																																																																			
	・外装厚塗材E	・																																																																			
・複層仕 上塗材	・複層塗材CE	・	・ゆず肌状 ・凸部処理 ・凹凸状 耐候性 ※耐候形3種 ・ 上塗材 溶媒 ※水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系 樹脂 ・アクリル系 ・ 外観 ※つやあり ・つやなし ・メタリック																																																																		
	・複層塗材Si	・																																																																			
	・複層塗材E	・																																																																			
	・複層塗材RE	・																																																																			
	・可とう形複層塗材CE	・																																																																			
	・防水形複層塗材CE	・																																																																			
	・防水形複層塗材E	・																																																																			
	・防水形複層塗材RE	・																																																																			
・防水形複層塗材RS	・																																																																				
・可とう 形改修用 仕上塗材	・可とう形改修塗材E	・	・平たん状 ・さざ波状 ・ゆず肌状 耐候性 ※耐候形3種 ・ 上塗材 溶媒 ※水系 ・溶剤系 ・弱溶剤系 樹脂 ・アクリル系 ・ 外観 ※つやあり ・つやなし ・メタリック																																																																		
	・可とう形改修塗材RE	・																																																																			
	・可とう形改修塗材CE	・																																																																			



	5 マスチック塗材塗り	種別	・ A種	・ B種	(4. 1. 5) (4. 7. 2)
5 建具 改修 工事	1 改修工法	・ かぶせ工法	・ 撤去工法		(5. 1. 3)
		新規に建具を設ける場合 壁部分の開口の開け方 ※図示			
		新規建具周囲の補修方法及び範囲は ※図示			
	2 防火戸	・ 適用する	適用箇所 (・ 建具表による	・ )	(5. 1. 4)
		・ 適用しない			
3 見本の製作等	建具見本の製作	・ 行う (建具符号 :	・ )		(5. 1. 5)
		・ 行わない			
	建具見本の程度	・ 工事に使用するものとして、あらかじめ製作する			
		・ 納まり等が分かる程度のもの			
	特殊な建具の仮組	・ 行う (建具符号 :	・ )		
		・ 行わない			
4 防犯建物部品	・ 適用する	適用箇所 (・ 建具表による	・ )		(5. 1. 7)
	・ 適用しない				
5 アルミ製建具	性能等級				(5. 2. 2~5)
	外部に面する建具	・ A種 (建具符号 : ・ 建具表による	・ )		
		・ B種 (建具符号 : ・ 建具表による	・ )		
		・ C種 (建具符号 : ・ 建具表による	・ )		
	防音ドアセット・防音サッシ	遮音性の等級 (・ )			
		(建具符号 : ・ 建具表による	・ )		
	断熱ドアセット・断熱サッシ	断熱性の等級 (・ )			
		(建具符号 : ・ 建具表による	・ )		
	耐震ドアセット	面内変形追従性の等級 (・ )			
		(建具符号 : ・ 建具表による	・ )		
	枠の見込み寸法	・ 建具表による	・		
	表面処理				
	外部に面する建具	・ B-1種	・ B-2種	・	
		着色 (・ アンバー	・ ブロンズ・ブラック系	・ ステンカラー)	
	屋内の建具	・ C-1種	・ C-2種	・	
		着色 (・ アンバー	・ ブロンズ・ブラック系	・ ステンカラー)	
	結露水の処理方法	・ 図示	・		
	水切り板、ぜん板	・ 図示	・		
	網戸等				
		種類	材種	線径	編目
		防虫網	※合成樹脂製 ・ ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ ステンレス (SUS316) 製	※0.25mm 以上 ・	※16~18 メッシュ ・
6 樹脂製建具	性能等級				(5. 2. 2) (5. 3. 2~5)
	外部に面する建具	・ A種 (建具符号 : ・ 建具表による	・ )		
		・ B種 (建具符号 : ・ 建具表による	・ )		
		・ C種 (建具符号 : ・ 建具表による	・ )		
	防音ドアセット・防音サッシ	遮音性の等級 (・ T-1	・ T-2	・ )	
		(建具符号 : ・ 建具表による	・ )		
	断熱ドアセット・断熱サッシ	断熱性の等級 (・ H-4	・ H-5	・ H-6	・ )
		(建具符号 : ・ 建具表による	・ )		
	枠の見込み寸法	・ 建具表による	・		
	表面色	※標準色	・ 特注色		
	水切り板、ぜん板	・ 図示	・		
	ガラス	※複層ガラス	・		

<p>7 鋼製建具</p> <p>性能等級 簡易気密型ドアセット ・適用する（建具符号：・建具表による ・ ） ・適用しない</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4（建具符号：・建具表による ・ ） ・S-5（建具符号：・建具表による ・ ） ・S-6（建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>防音ドアセット・防音サッシ 遮音性の等級（・ ） （建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>断熱ドアセット・断熱サッシ 断熱性の等級（・ ） （建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>耐震ドアセット 面内変形追随性の等級（・ ） （建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>鋼板</p> <table border="1" data-bbox="467 618 1425 808"> <thead> <tr> <th>材料</th> <th>めっき付着量</th> <th>厚さ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・JIS G 3302 （溶融亜鉛めっき鋼板）</td> <td>※Z12 又は F12 ・</td> <td rowspan="2">・改修標準仕様書表 5.4.2 による ・</td> </tr> <tr> <td>・JIS G 3317 （溶融亜鉛-5%アルミニウム合 金めっき鋼板）</td> <td>※Y08 ・</td> </tr> </tbody> </table>	材料	めっき付着量	厚さ	・JIS G 3302 （溶融亜鉛めっき鋼板）	※Z12 又は F12 ・	・改修標準仕様書表 5.4.2 による ・	・JIS G 3317 （溶融亜鉛-5%アルミニウム合 金めっき鋼板）	※Y08 ・	<p>(5. 2. 2) (5. 4. 2~5)</p>
材料	めっき付着量	厚さ							
・JIS G 3302 （溶融亜鉛めっき鋼板）	※Z12 又は F12 ・	・改修標準仕様書表 5.4.2 による ・							
・JIS G 3317 （溶融亜鉛-5%アルミニウム合 金めっき鋼板）	※Y08 ・								
<p>8 鋼製軽量建具</p> <p>性能等級 簡易気密型ドアセット ・適用する（建具符号：・建具表による ・ ） ・適用しない</p> <p>防音ドアセット・防音サッシ 遮音性の等級（・ ） （建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>断熱ドアセット・断熱サッシ 断熱性の等級（・ ） （建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>耐震ドアセット 面内変形追随性の等級（・ ） （建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>鋼板の厚さ ・改修標準仕様書表 5.5.1 による ・ 召合せ、縦小口包み板等の材質 ※鋼板 ・</p>	<p>(5. 2. 2) (5. 5. 2~4)</p>								
<p>9 ステンレス製建具</p> <p>性能等級 簡易気密型ドアセット ・適用する（建具符号：・建具表による ・ ） ・適用しない</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4（建具符号：・建具表による ・ ） ・S-5（建具符号：・建具表による ・ ） ・S-6（建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>防音ドアセット・防音サッシ 遮音性の等級（・ ） （建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>断熱ドアセット・断熱サッシ 断熱性の等級（・ ） （建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>耐震ドアセット 面内変形追随性の等級（・ ） （建具符号：・建具表による ・ ）</p> <p>・ステンレス鋼板（屋外） ・SUS430J1L ・SUS443J1 ・SUS304 ・ ・ステンレス鋼板（屋内） ※SUS430 ・SUS430J1L ・SUS443J1 ・SUS304 ・ 表面の仕上げ ※HL仕上げ ・鏡面仕上げ ・アクリル樹脂エマルジョン焼き付け 鋼板の曲げ加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ</p>	<p>(5. 2. 2) (5. 4. 2) (5. 6. 2~5)</p>								

10 建具金物	<p style="text-align: right;">(5. 7. 1~4)</p> <p>金物の種類及び見え掛り部の材質等 ※改修標準仕様書表 5. 7. 1 による</p> <p>樹脂製建具に使用する丁番 ※改修標準仕様書表 5. 7. 3 による</p> <p>握り玉及びレバーハンドル、押板類、クレセント等の取付け位置 ・ 建具表による</p> <p>鍵</p> <p>マスターキー ・ 製作しない ・ 製作する (製作範囲 )</p> <p>・ 既存のマスターキーに合わせる</p> <p>その他の鍵 ※各室 3 本 1 組</p> <p>鍵箱 ・ 有 ・ 無</p>																						
11 自動ドア開閉装置	<p style="text-align: right;">(5. 8. 2、3)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">名称</th> <th style="width: 15%;">種類</th> <th style="width: 20%;">性能値</th> <th style="width: 10%;">戸の開閉方法</th> <th style="width: 25%;">センサーの種類</th> <th style="width: 15%;">凍結防止</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>スライディングドア</td> <td>・ SSLD-1 ・ SSLD-2 ・ DSLD-1 ・ DSLD-2</td> <td>※改修標準仕様書表 5. 8. 1 による</td> <td>・</td> <td>・ マットスイッチ ・ 光線 (反射スイッチ) ・ 熱線スイッチ ・ 音波スイッチ</td> <td rowspan="3">・ 行う (適用箇所は建具表による) ・ 行わない</td> </tr> <tr> <td>スイングドア</td> <td>・ SWD-1 ・ SWD-2</td> <td>※改修標準仕様書表 5. 8. 2 による</td> <td>・</td> <td>・ 光電スイッチ ・ 電波スイッチ ・ タッチスイッチ</td> </tr> <tr> <td>・ 図示</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・ 押しボタンスイッチ ・ ペダルスイッチ ・ 多機能トリスイッチ</td> </tr> </tbody> </table>	名称	種類	性能値	戸の開閉方法	センサーの種類	凍結防止	スライディングドア	・ SSLD-1 ・ SSLD-2 ・ DSLD-1 ・ DSLD-2	※改修標準仕様書表 5. 8. 1 による	・	・ マットスイッチ ・ 光線 (反射スイッチ) ・ 熱線スイッチ ・ 音波スイッチ	・ 行う (適用箇所は建具表による) ・ 行わない	スイングドア	・ SWD-1 ・ SWD-2	※改修標準仕様書表 5. 8. 2 による	・	・ 光電スイッチ ・ 電波スイッチ ・ タッチスイッチ	・ 図示	・	・	・	・ 押しボタンスイッチ ・ ペダルスイッチ ・ 多機能トリスイッチ
名称	種類	性能値	戸の開閉方法	センサーの種類	凍結防止																		
スライディングドア	・ SSLD-1 ・ SSLD-2 ・ DSLD-1 ・ DSLD-2	※改修標準仕様書表 5. 8. 1 による	・	・ マットスイッチ ・ 光線 (反射スイッチ) ・ 熱線スイッチ ・ 音波スイッチ	・ 行う (適用箇所は建具表による) ・ 行わない																		
スイングドア	・ SWD-1 ・ SWD-2	※改修標準仕様書表 5. 8. 2 による	・	・ 光電スイッチ ・ 電波スイッチ ・ タッチスイッチ																			
・ 図示	・	・	・	・ 押しボタンスイッチ ・ ペダルスイッチ ・ 多機能トリスイッチ																			
12 木製建具	<p>建具材の含水率 ・ A種 ※B種 ・ C種 建築標仕 (16. 7. 2)</p> <p>合板のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・ 第三種 (16. 7. 2)</p> <p>ふすま材料 ・ I型 ・ II型 (16. 7. 2)</p> <p>建具用接着材のホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・ 第三種 (16. 7. 2)</p> <p>建具表面板の厚さ ( mm) (16. 7. 3)</p> <p>・ 普通合板 ・ 難燃合板 ・ 特殊合板</p>																						
13 自閉式上吊引戸装置	<p style="text-align: right;">(5. 9. 3)</p> <p>性能 ※改修標準仕様書表 5. 9. 1 による</p>																						
14 重量シャッター	<p style="text-align: right;">(5. 10. 2、3)</p> <p>種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理用シャッター 耐風圧強度 ( ) N/m<sup>2</sup></li> <li>・ 外壁用防火シャッター 耐風圧強度 ( ) N/m<sup>2</sup></li> <li>・ 屋内用防火シャッター</li> <li>・ 防煙シャッター</li> </ul> <p>開閉機能による種類 ※上部電動式 (手動併用) ・ 上部手動式</p> <p>屋内用防火シャッター若しくは防煙シャッターの危害防止機構</p> <p>※改修標準仕様書 5. 10. 2(d) (4) (i) かつ (iii)</p> <p>・ 改修標準仕様書 5. 10. 2(d) (4) (ii) かつ (iii)</p> <p>シャッターケース (防火、防煙以外の場合) ・ 設ける ・ 設けない</p> <p>スラット及びシャッターケース用鋼板</p> <p>鋼板の種類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯 (JIS G 3302)</li> <li>・ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯 (JIS G 3312)</li> </ul> <p>めっきの付着量 ※Z12 又は F12</p>																						
15 軽量シャッター	<p style="text-align: right;">(5. 11. 2~4)</p> <p>開閉形式 ※手動式 ・ 上部電動式 (手動併用式)</p> <p>耐風圧強度 ( ) N/m<sup>2</sup></p> <p>スラットの材質</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯 (JIS G 3312)</li> <li>めっきの付着量 (※Z06 又は F06 )</li> <li>・ 塗装溶融 55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯 (JIS G 3322)</li> <li>めっきの付着量 (※AZ90 )</li> </ul> <p>スラット形状</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターロッキング形</li> <li>・ オーバーラッピング形</li> </ul>																						

16 オーバーヘッドドア

(5. 12. 2~3)

セクション材料による区分	耐風圧区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料
※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバークラスタイプ	・125 ・100 ・75 ・50	※バランス式 ・チェーン式 ・電動式	・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・バーチカル形	※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板

17 ガラス

(5. 13. 2~4)

- ・フロート板ガラス 厚さによる種類は図示による
- ・型板ガラス 品種及び厚さによる種類は図示による
- ・網入板ガラス及び線入板ガラス 品種及び厚さによる種類は図示による
- ・合わせガラス 材料板ガラスの種類及び厚さの組合せ並びに合わせガラスの合計厚さ及び特性による種類は図示による
- ・強化ガラス 材料板ガラスの種類による名称（呼び厚を含む。）及び特性による種類は図示による
- ・倍強度ガラス 材料板ガラスの種類及び厚さによる種類は図示による
- ・熱線吸収板ガラス

板ガラスによる種類	厚さによる種類(mm)	性能による種類
・熱線吸収フロート板ガラス ・	・	・1種 ・2種

・複層ガラス

材料板ガラスの種類	厚さの組み合わせ	複層ガラスの厚さ	断熱性・日射熱遮へい性による区分
※図示 ・	※図示 ・	※図示 ・	・1種U1 ・2種U2 ・3種U3-1 ・3種U3-2 ・4種E4 ・5種E5

・熱線反射ガラス

材料板ガラスの種類	厚さによる種類	日射熱遮へい性	耐久性による区分
・フロート板ガラス ・磨きガラス ・熱線吸収フロート板ガラス ・熱線吸収磨き板ガラス ・平面強化ガラス ・倍強度ガラス	・	・1種	A種
		・2種	・A種 ・B種
		・3種	B種

映像調整 ・行う ・行わない  
ガラス留め材及び溝の大きさ

建具の種類	ガラス留め材	ガラス溝の大きさ
アルミニウム製	・シーリング材 ・ガスケット ・グレイジングチャンネル形 ・	・改修標準仕様書表 5. 13. 1 による ・図示 ・
鋼製及びステンレス製	・シーリング材 ・	・改修標準仕様書表 5. 13. 1 による ・図示 ・

18 ガラスブロック

(5. 13. 5)

表面形状	呼び寸法 (m) m)	厚さ (mm)	色調		目地幅 (mm)		伸縮調整目地 (mm)	防火性能
			クリア	乳白	平積み	曲面積み		
正方形	・125×125	80	・	・	※8~15	外側	※6m以下ごとに幅10~20 ・図示	※無し ・有り
	・160×160	・95 ・125	・	・	5	※15以下		
	・200×200	・95 ・125	・	・	5	内側		
	・320×320	95	・	・	・	※6以上		
長方形		80	・	・				
		95	・	・				

曲面積みの曲率半径は、ガラスブロックの幅寸法の10倍以上とする。

壁用金属枠及び補強材 ・ 設ける(形状 ※図示 )  
・ 設けない

力骨 材質 ※ステンレス鋼 (SUS304) ・  
寸法 ※径 5.5mm ・  
形状 ※はしご形状複筋及び単筋 ・

化粧目地モルタルの色 ( )

金属化粧カバー 材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製  
寸法 ・図示 ・  
形状 ・図示 ・

工法

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ( )

目地部の力骨の補強方法

※ガラスブロック製造所の仕様による ・ 図示 ・

6 内装改修工事

1 改修範囲

(6. 1. 3)

既存間仕切り壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲

※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・ 図示

天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲

※壁面より両側 600mm程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ・ 図示

天井の撤去に伴う取り合い部の壁面の改修

※既存のまま ・ 図示

2 既存床の撤去並びに下地補修

(6. 2. 2)

ビニル床シート等の除去

※仕上げ材のみ(接着剤とも)

・ 下地モルタルとも (・ 図示の範囲 ・ 撤去範囲全て)

合成樹脂塗床の除去方法 ・ 機械的除去工法 ・ 目荒し工法

改修後の床の清掃範囲 ・ 当該室全体 ・ 図示の範囲

3 既存壁の撤去並びに下地補修

(6. 3. 2)

間仕切り壁撤去に伴う他の構造体の補修

※改修標準仕様書 4.4.9によるモルタル塗り

(塗り厚 25mmを超える場合の補強 ・ 行う ・ 行わない)

・ 図示

4 木下地等の表面仕上げ

(6. 5. 1)

適用箇所	表面仕上げの種別
・	・ A種
・	・ B種
・	・ C種

(6. 5. 2)

5 製材

・ 「製材の日本農林規格」による下地用針葉樹製材

施工箇所	樹種	寸法 (mm)	等級	形状	含水率
			※2級		※A種
			・		・ B種
			※2級		※A種
			・		・ B種

## 6 造作用集成材

ホルムアルデヒド放散量

※F☆☆☆☆

## ・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質
			※1等 ・ 2等
			※1等 ・ 2等

## ・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質
	化粧薄板： 芯材：			※1等 ・ 2等
	化粧薄板： 芯材：			※1等 ・ 2等

## ・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり構造用集成柱

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)
	化粧薄板： 芯材：		※1等 ・ 2等
	化粧薄板： 芯材：		※1等 ・ 2等

## ・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	見付け材面の品質	含水率
				※15%以下 ・
				※15%以下 ・

## ・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材

施工箇所	樹種	寸法(mm)	化粧薄板の厚さ(mm)	見付け材面の品質	含水率
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・
	化粧薄板： 芯材：				※15%以下 ・

## 7 造作用単板積層材

ホルムアルデヒド放散量

※F☆☆☆☆

## ・「単板積層材の日本農林規格」による造作用単板積層材

施工箇所	厚さ(mm)	表面の化粧加工	防虫処理
		・有 (加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無(等級： )	・適用する ・適用しない
		・有 (加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工) ・無(等級： )	・適用する ・適用しない

・「単板積層材の日本農林規格」以外の造作用単板積層材

施工箇所	厚さ (mm)	表面の化粧加工	含水率	防虫処理
		・有 (加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工)	※14%以下 ・	・適用する ・適用しない
		・無 (等級： )		
		・有 (加工：・天然木化粧加工 ・塗装加工)	※14%以下 ・	・適用する ・適用しない
		・無 (等級： )		

8 床張り用合板等

(6. 5. 2)

ホルムアルデヒド放散量

※F☆☆☆☆

・普通合板

施工箇所	厚さ (mm)	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	防虫処理
	※5.5 ・		※1類 ・2類	広葉樹 ※2等以上 ・1等 針葉樹 ※C-D以上 ・	・適用する ・適用しない
	・		・1類 ・2類	・	・適用する ・適用しない

・構造用合板

施工箇所	等級	表板の樹種名	接着の程度	板面の品質	厚さ (mm)	防虫処理	強度等級
	※2級以上 ・1級		※1類 ・特類	※C-D以上 ・	※12 ・	・適用する ・適用しない	・適用する ( ) ・適用しない
	※2級以上 ・1級		※1類 ・特類	※C-D以上 ・	※12 ・	・適用する ・適用しない	・適用する ( ) ・適用しない

・パーティクルボード

施工箇所	表裏面の状態による区分	曲げ強さによる区分	接着剤による区分	難燃性による区分	厚さ (mm)
		※13 及び	※P 又は M ・		※15 ・
		・	・		・

・構造用パネル

施工箇所	等級	厚さ (mm)
	・1級 ・2級 ・3級 ・4級	※15 ・
	・1級 ・2級 ・3級 ・4級	・

9 接着剤

(6. 5. 3、4) (6. 8. 2) (6. 9. 3) (6. 11. 4、5)

ホルムアルデヒド放散量

※F☆☆☆☆

10 防腐、防蟻処理

(6. 5. 5)

・防腐・防蟻処理が不要な樹種による製材  
適用部位：( )

・薬剤の加圧注入による防腐・防蟻処理

適用部位	保存処理性能区分		
	・ K 2	・ K 3	・ K 4
	・ K 2	・ K 3	・ K 4

・薬剤の塗布による防腐・防蟻処理

適用部位	処理の方法
	※改修標準仕様書 6. 5. 5(a) (iii) ②ア～エによる
	・
	・

・ボンド原料接着剤への薬剤混入による防腐・防蟻処理  
適用部位：( )

11 軽量鉄骨天井下地

野縁等の種類

(6. 6. 2)

屋内 ※19形 ・25形 屋外 ・19形 ※25形

・屋外の軒天井、ピロティ天井等

工法 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

野縁受、吊りボルトおよびインサートの間隔

・図示

周辺部の端からの間隔 ・図示

野縁の間隔 ・図示

インサート

(6. 6. 4)

・既存インサートを使用する

・あと施工アンカーを設ける

あと施工アンカーの引き抜き試験

・行う（屋外の場合の方法： )

※行わない

・吊りボルトの間隔が900mmを超える場合 補強方法 ※図示

・天井のふとところが1.5m以上3.0mの場合 補強方法 ※図示

・天井のふとところが3mを超える場合 補強箇所 ※図示

補強方法 ※図示

・天井下地材における耐震性を考慮した補強 補強箇所 ※図示

補強方法 ※図示

12 軽量鉄骨壁下地

スタッド、ランナーの種類

(6. 7. 3)

※改修標準仕様書表 6. 7. 1によるスタッドの高さによる区分に応じた種類

・

スタッドの高さが5.0mを超える場合 ※図示

13 ビニル床シート

(6. 8. 2、3)

区分	JIS 記号	施工箇所	色柄	特殊機能	厚さ (mm)	備考
発泡層のないもの	※FS		・無地 ・マブル柄	・帯電防止 ・耐動荷重性	※2.0	
発泡層のあるもの	・		・無地 ・柄物	・防滑性 ・耐薬品性		

工法 ※熱溶接工法

・突付け



14 ビニル床タイル張り

(6. 8. 2)

JIS 記号	施工箇所	色柄	寸法 (mm)	特殊機能	厚さ (mm)	備考
・ FT		・ 無地 ・ 柄物	・ 300×300 ・ 450×450	・ 帯電防止 ・ 防滑性 ・ 視覚障害者用	※2.0 ・ 2.5 ・ 3.0	
・ KT		・ 無地 ・ 柄物	・ 300×300 ・ 450×450	・ 帯電防止 ・ 防滑性 ・ 視覚障害者用	・ 2.0 ・ 3.0	
・ FOA		・ 無地 ・ 柄物	・ 500×500	・ 帯電防止 ・ 防滑性 ・ 視覚障害者用	・	

15 ビニル幅木

(6. 8. 2)

材種 ※軟質 ・硬質  
 厚さ ※ 1. 5 以上 ・  
 高さ ※ 6 0 ・ 7 5 ・ 1 0 0

16 ゴム床タイル

(6. 8. 2)

色柄 ( )  
 厚さ (mm) ・ 3. 0 ・ 4. 0 ・ 5. 0 ・ 6. 0 ・ 9. 0  
 寸法 (mm) ( )

17 カーペット敷き

(6. 9. 3、4)

・ 織じゅうたん

種別	パイル形状	織り方	色柄等	帯電性	備考
・ A 種 ・ B 種 ・ C 種	・ カットパイル ・ ループパイル ・ カット、ループ併用	・ ウィルトンカーペット ・ ダブルフェースカーペット ・ アクシミンスターカーペット	・ 無地 ・ 柄物 (標準品)	・ 適用する (性能 : ※人体耐電圧 3kv 以下) ・ 適用しない	

下敷き材

※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ 8mm

・ タフテッドカーペット

パイル形状	パイル長さ (mm)	工法	帯電性	備考
・ カットパイル	※5~7	・ ウィルトンカーペット ・ ダブルフェースカーペット ・ アクシミンスターカーペット	・ 適用する (性能 : ※人体耐電圧 3kv 以下) ・ 適用しない	
・ ループパイル	※4~6			
・ レベルループパイル	※4			
・ カット、ループ併用	・			

下敷き材

※反毛フェルト (JIS L 3204) の第2種2号 呼び厚さ 8mm

・ ニードルパンチカーペット

厚さ (mm) ( )  
 帯電性 ・ 適用する (性能 : ※人体耐電圧 3kv 以下) ・  
 ・ 適用しない  
 備考 ( )

・タイルカーペット

パイル形状	種類	施工箇所	寸法(mm)	総厚さ(mm)	備考
※ループパイル	※第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	
・カットパイル	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	
・カット、ループ併用	・第一種 ・第二種		※500×500 ・	※6.5 ・	

18 合成樹脂塗床

(6. 10. 2、3)

種別	施工箇所	工法	仕上げの種類
・厚膜型塗床材 弾性ウレタン 樹脂系塗床			※平滑仕上げ ・防滑仕上げ ・つや消し仕上げ
・厚膜型塗床材 エポキシ樹脂 系塗床		・薄膜流し展べ工法 ・厚膜流し展べ工法 ・樹脂モルタル工法	・平滑仕上げ ・防滑仕上げ
・薄膜型塗床材			

19 フローリング張り

(6. 11. 2～6)

単層フローリング

種類	工法	樹種	厚さ(mm)	大きさ(mm)	仕上塗装
・フローリング ボード1等	・釘留め工法 (根太張り)	※なら ・	15	板幅 75 板長さ 500 以上	・塗装品 ・無塗装品
	・釘留め工法 (直張り)	※なら ・	・12 以上 ・	板幅 75 板長さ 300 以上	
	・接着工法	※なら ・	・12 以上 ・	板幅 75 板長さ 300 以上	
・フローリング ブロック1等	・接着工法	※なら ・	15	303×303	・塗装品 ・無塗装品
・モザイクパ ケット1等	・接着工法	・	・	・	・塗装品 ・無塗装品

複合フローリング

種類	工法	樹種	厚さ・大き さ(mm)	種別	仕上 塗装
・天然木化粧 複合フローリング	・釘留め工法 (根太張り) ・釘留め工法 (直張り)	※なら ・		・A種 ・B種 ※C種	・塗装品 ・無塗装品
	・接着工法	※なら ・	板厚 ・8 以上 ・ 板幅 ・75 以上 ・ 板長さ 900 以上		

フローリング及び接着剤のホルムアルデヒド放散量

※F☆☆☆☆

接着工法の場合の裏面緩衝材

※合成樹脂発泡シート

現場塗装仕上げ 行う(施工箇所)

※ウレタン樹脂ワニス塗り

・オイルステインの上、ワックス塗り

・生地そのままワックス塗り

・行わない

20 畳敷き

(6. 12. 2)

畳の種別 ・ A種 ※B種 ・ C種 ・ D種 (畳床・KT-I・KT-II・KT-III・KT-K・KT-N)

下地の種類

・ 標準仕様書 表 12. 6. 1 による床組

21 せっこうボードその他ボード及び合板張り

(6. 13. 2、3)

種類	JISの記号	厚さ (mm)、規格等
・ 硬質木毛セメント板	HW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
・ 中質木毛セメント板	MW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
・ 普通木毛セメント板	NW	・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
・ 硬質木片セメント板	HF	・ 12 ・ 15 ・ 18 ・ 21
・ 普通木片セメント板	NF	・ 30 ・
・ けい酸カルシウム板	0.8FK 1.0FK	タイプ 2 (無石綿) ・ 6 ・ 8
・ ロックウール化粧吸音板	DR	・ フラットタイプ (・ 9 (不燃) ・ 12 (不燃) ・ ) ・ 凹凸タイプ (・ 12 (不燃) ・ 15 (不燃) ・ )
・ ロックウール吸音ボード 1号	RW-B	・ 25 ・
・ グラスウール吸音ボード 32K	GW-B	・ 25 (ガラスクロス包)
・ せっこうボード	GB-R	・ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃) ・
・ 不燃積層せっこうボード	GB-NC	9.5 (不燃) ・ 化粧無 (下地張り用) ・ 化粧有 (トランプン模様)
・ シーズンせっこうボード	GB-S	12.5 (・ 不燃 ・ 準不燃)
・ 強化せっこうボード	GB-F	・ 12.5 (不燃) ・ 15 (不燃)
・ せっこうラスボード	GB-L	9.5
・ 化粧せっこうボード (木目)	GB-D	12.5 (不燃) 幅 440mm 程度 模様 (・ 柱目 ・ 板目) 専用下地材有り
・ 化粧せっこうボード (トランプン模様)	GB-D	9.5 (準不燃)
・ 普通合板		表面の樹種 ・ 生地そのまま又は透明塗料塗り (※ワシ程度 ・ ) ・ 不透明塗料塗り (※しな程度 ・ ) 板面の品質 ( ) 厚さ (mm) ( ) 接着の程度 (・ 1類 ・ 2類) ・ 防虫処理 ・ 防炎処理 ・
・ 天然木化粧合板		化粧板の樹種名 ( ) 接着の程度 (・ 1類 ・ 2類) 厚さ (mm) ( ) ・ 防虫処理 ・ 防炎処理 ・
・ 特殊加工化粧合板		化粧加工の方法 (・ オーバーレイ ・ フリント ・ 塗装) 表面性能 ( ) タイプ 接着の程度 (・ 1類 ・ 2類) 厚さ (mm) ( ) ・ 防虫処理 ・ 防炎処理 ・
・ ミディアムデンシティファイバーボード	MDF	・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12 ・
・ ハートボード (素地)	HB	・ 無研磨板 (スタンダード ・ テンハート) ・ 研磨板 (スタンダード ・ テンハート)
・ インシュレーションボード	IB	A級 (・ 天井仕上げ ・ 内装仕上げ ・ ) ・ 9 ・ 12 ・ 15 ・ 18

せっこうボード等の下地は図示による。  
 遮音シール材  
 ・適用する（・シーリング材 ・ジョイントコンパウンド）  
 ・適用しない  
 合板類、MDF、パーティクルボード及び接着剤のホルムアルデヒド放散量  
 ※F☆☆☆☆  
 合板類の張付け ※B種 ・A種  
 せっこうボードの目地工法 ・仕上げ表による

22 壁紙張り

(6. 14. 2、3)

ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆

施工箇所	壁紙の種類					防火性能	備考 (参考品番)
	紙	繊維	プラスチック	無機質	その他		
	・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃	
	・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃	
	・	・	・	・	・	※不燃 ・準不燃	

モルタル・プラスター面の下地調整 ※RB種 ・  
 コンクリート・ALC面の下地調整 ※RB種 ・  
 せっこうボード面の下地調整 ※RB種 ・

23 モルタル塗り

(6. 15. 3、6)

既製目地材 ・設ける 施工箇所（ ）  
 形状（※図示 ・ ）  
 ・設けない  
 床目地 ・設ける（工法：※押し目地 ・ ）  
 ・設けない

24 タイル張り

(6. 16. 2~4)

伸縮調整目地の位置  
 床タイル（※縦、横とも4m以内ごと ・ 図示 ・ ）  
 床タイル以外（・ 図示 ・ ）  
 ・セメントモルタルによる陶磁器質タイル張り  
 タイルの形状、寸法

施工箇所	形状寸法 (mm)	再生材 料の適 用	吸水率による区分			うわぐすり		役 物		色		耐凍害性		耐滑り性	備 考 (参 考 品 番)
			I 類	II 類	III 類	施 ゆ	無 ゆ	有	無	標 準	特 注	有	無		
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

試験張り ・行う ・行わない  
 見本焼き ・行う ・行わない  
 ・接着剤による陶磁器質タイル張り  
 タイルの形状、寸法

施工箇所	形状寸法 (mm)	再生材 料の適 用	吸水率による区分			うわぐすり		役 物		色		耐凍害性		耐滑り性	備 考 (参 考 品 番)
			I 類	II 類	III 類	施 ゆ	無 ゆ	有	無	標 準	特 注	有	無		
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
			・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	

試験張り ・行う ・行わない  
 見本焼き ・行う ・行わない

内装壁タイル接着剤張りに使用する有機質接着剤のホルムアルデヒド放散量  
 ※F☆☆☆☆

25 セルフベリング材塗り

(6. 17. 2、3)

種類 ・セメント系 ・せっこう系  
 塗厚 （ mm）

1 材料

(7. 1. 3)

屋内で使用する塗料のホルムアルデヒド放散量  
 ※F☆☆☆☆

防火材料 ※屋内の壁、天井仕上げは防火材料とする。  
 ・次の箇所を除き防火材料とする。  
 (箇所： )

2 下地調整

(7. 2. 2~7)

下地面の種類	下地調整の種別		ひび割れ部の補修
	塗替え	新規	
木部	※RB種	・RA種・RB種	
鉄鋼面	※RB種	RA種	
亜鉛めっき鋼面	※RB種	RA種	
亜鉛メッキ鋼面(鋼製建具)	※RB種	RC種	
モルタル面、プaster面	※RB種	・RA種・RB種	・行う ・行わない
コンクリート面(DP以外)、ALCパネル面	※RB種	RA種	・行う ・行わない
コンクリート面(DP)、押出成形セメント面	・	・RA種	・行う ・行わない
せっこうボード面、その他のボード面	※RB種	・RA種・RB種	

3 錆止め塗料塗り

(7. 3. 2、3)

塗装面		塗料		工程
・鉄鋼面	EP-G 以外	塗替え	A種	※C種
		新規見え掛り	A種	※A種
		新規見え隠れ	A種	※B種
	EP-G	塗替え	B種	※C種
		新規見え掛り	B種	※A種
		新規見え隠れ	B種	※B種
・亜鉛めっき面	EP-G 以外	塗替え	※A種	※C種
		新規(鋼製建具)	※A種	※A種
		新規(鋼製建具以外)	※A種	※C種
	EP-G	塗替え	C種	※C種
		新規(鋼製建具)	C種	※A種
		新規(鋼製建具以外)	C種	※C種

4 塗装

(7.4.2~7.15.2)

塗装の種別	塗装面	工程	
		塗替え	新規
・合成樹脂調合 ペイント塗り (SOP) 塗料の種別 ※1種・2種	木部屋外	※B種・	※A種・
	木部屋内	※B種・	※B種・
	鉄鋼面	※B種・	・A種※B種
	亜鉛めっき鋼面(鋼製建具)	※A種・	※B種・
	〃 (鋼製建具以外)	※B種・	※B種・
・クリヤラッカー 塗り(CL)	木部	※B種・	※B種・
・耐候性塗料塗り (DP)	鉄鋼面 上塗り等級( )級	・A種・B種・C種	※A種・
	亜鉛めっき鋼面 上塗り等級( )級	・A種・B種・C種	※A種・
	コンクリート面	・A-1種 ・A-2種 ・B-1種 ・B-2種 ・C-1種 ・C-2種	
	押出成形セメント板面	・A-1種 ・A-2種 ・B-1種 ・B-2種 ・C-1種 ・C-2種	
・つや有り合成樹脂 エマルジョンペイント塗り (EP-G)	コンクリート面、モルタル面	・A種※B種・C種	・A種※B種
	せっこうボード面	・A種※B種・C種	・A種※B種
	その他ボード面	・A種※B種・C種	・A種※B種
	屋内の木部	・A種※B種・C種	※A種・B種
	屋内の鉄鋼面	・A種※B種・C種	・A種※B種
	屋内の亜鉛めっき鋼面	・A種※B種・C種	・A種※B種
・合成樹脂 エマルジョンペイント塗り (EP)	コンクリート面、モルタル面	・A種※B種・C種	・A種※B種
	せっこうボード面	・A種※B種・C種	・A種※B種
	その他ボード面	・A種※B種・C種	・A種※B種
・ウレタン樹脂 ワニス塗り(UC)	木部	・A種※B種	・A種※B種
・ラッカーエナメル塗り (LE)	木部	・A種※B種	・A種※B種
・木材保護塗料塗り (WP)	木部	・A種※B種	・A種※B種

つや有り合成樹脂エマルジョンペイント塗り(コンクリート面、モルタル面、プaster面、  
せっこうボード面)の塗替えの場合のしみ止め

※改修標準仕様書表7.9.1の工程1の下塗りをしみ止めシーラーとする

合成樹脂エマルジョンペイント塗りの塗り替えの場合のしみ止め

※改修標準仕様書表7.10.1の工程1の下塗りをしみ止めシーラーとする

8 耐震改修工事 共通事項

1 適用範囲

・改修標準仕様書 第8章 耐震改修工事  
・改修標準仕様書において 第8章 耐震改修工事以外の改修工事で第8章を引用している  
部分

工事内容

- ・現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事
- ・鉄骨ブレースの設置工事
- ・柱補強工事(溶接金網巻き工法又は溶接閉鎖フープ巻き工法)
- ・柱補強工事(鋼板巻き工法又は帯板巻き付け工法)
- ・連続繊維補強工事
- ・耐震リット新設工事
- ・免震改修工事
- ・制振改修工事
- ・基礎工事

	<p>2 既存部分の処理等</p> <p>既存構造体の撤去 撤去範囲 ・ 図示による ( ) ・ はつり出した鉄筋及び鉄骨の処置 ・ 図示による ( ) ・</p> <p>既存コンクリートの目荒らしの程度 ・ 既存柱、梁面 打継ぎ面の 15~30%程度 ・ 既存壁 打継ぎ面の 10~15%程度</p> <p>既存コンクリートの目荒らしの範囲 ※平均深さ 2~5mm (最大 7mm) 程度の凹凸を全体にわたってつける ・</p> <p>既存杭の撤去等 ・ 撤去範囲及び工法 ・ 杭頭部の処理 ・ 既存杭の補強 ・ 既存杭の健全性を確認する試験</p>	<p>(8. 21. 2) (8. 22. 2) (8. 23. 2) (8. 24. 2)</p> <p>(8. 21. 3) (8. 22. 3) (8. 23. 3)</p> <p>(8. 28. 2)</p> <p>・ 図示による ( ) ・ ・ 図示による ( ) ・ ・ 図示による ( ) ・ ・ 図示による ( ) ・</p>																							
<p>8 1 耐震 改修 工事 鉄筋 工事</p>	<p>1 鉄筋の種類</p>	<p>(8. 2. 1)</p> <table border="1" data-bbox="464 775 1425 947"> <thead> <tr> <th>規格名称</th> <th>種類の記号</th> <th>呼び径(mm)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">鉄筋コンクリート用棒鋼 (異形鉄筋)</td> <td>※SD295A</td> <td>※D16 以下</td> </tr> <tr> <td>※SD345</td> <td>※D19 以上</td> </tr> <tr> <td>建築基準法第 3 7 条の規定に基づき認定を受けたせん断補強筋</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>2 溶接金網</p> <p>形状等</p> <table border="1" data-bbox="438 1025 1393 1153"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>種類の記号</th> <th>網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 溶接金網</td> <td>WFP</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ 鉄筋格子</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	規格名称	種類の記号	呼び径(mm)	鉄筋コンクリート用棒鋼 (異形鉄筋)	※SD295A	※D16 以下	※SD345	※D19 以上	建築基準法第 3 7 条の規定に基づき認定を受けたせん断補強筋			種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)	適用箇所	・ 溶接金網	WFP			・ 鉄筋格子			
規格名称	種類の記号	呼び径(mm)																							
鉄筋コンクリート用棒鋼 (異形鉄筋)	※SD295A	※D16 以下																							
	※SD345	※D19 以上																							
建築基準法第 3 7 条の規定に基づき認定を受けたせん断補強筋																									
種類	種類の記号	網目の形状、寸法、鉄線の径 (mm)	適用箇所																						
・ 溶接金網	WFP																								
・ 鉄筋格子																									
	<p>3 鉄筋の継手</p>	<p>継手方法 (8. 3. 4) (8. 4. 2、3)</p> <table border="1" data-bbox="464 1205 1425 1435"> <thead> <tr> <th>適用箇所</th> <th>継手方法と適用径の範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 柱主筋</td> <td>※ガス圧接 (D19 以上) ・</td> </tr> <tr> <td>・ 梁主筋</td> <td>※ガス圧接 (D19 以上) ・</td> </tr> <tr> <td>・ 耐力壁</td> <td>※重ね継手 ・</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・ 基礎スラブ、耐圧スラブ、土圧壁など</td> <td>・ ガス圧接 ( )</td> </tr> <tr> <td>・ 重ね継手 ( )</td> </tr> <tr> <td>・ その他 ( )</td> <td>・ 重ね継手 ( ) ・</td> </tr> </tbody> </table> <p>耐力壁の重ね継手の長さ (8. 3. 4) ・ 図示による ・</p> <p>継手位置 ※図示による ・</p>	適用箇所	継手方法と適用径の範囲	・ 柱主筋	※ガス圧接 (D19 以上) ・	・ 梁主筋	※ガス圧接 (D19 以上) ・	・ 耐力壁	※重ね継手 ・	・ 基礎スラブ、耐圧スラブ、土圧壁など	・ ガス圧接 ( )	・ 重ね継手 ( )	・ その他 ( )	・ 重ね継手 ( ) ・										
適用箇所	継手方法と適用径の範囲																								
・ 柱主筋	※ガス圧接 (D19 以上) ・																								
・ 梁主筋	※ガス圧接 (D19 以上) ・																								
・ 耐力壁	※重ね継手 ・																								
・ 基礎スラブ、耐圧スラブ、土圧壁など	・ ガス圧接 ( )																								
	・ 重ね継手 ( )																								
・ その他 ( )	・ 重ね継手 ( ) ・																								
	<p>4 鉄筋の定着長さ</p>	<p>鉄筋の定着長さ ※図示による ・</p>																							
	<p>5 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 (溶接金網を含む)</p>	<p>(8. 3. 5)</p> <p>最小かぶり厚さ ※図示による ・</p> <p>柱及び梁の主筋に D 2 9 以上の使用の有無 ・ 無し ・ 有り 適用箇所 ( ) 主筋のかぶり厚さを径の 1. 5 倍以上確保する 耐久性上不利な部分 (塩害を受けるおそれのある部分等) ・ 無し ・ 有り 適用箇所 ( ) ・ 最小かぶり厚さに加える厚さ ( ) mm</p> <p>鉄筋相互のあき (機械式継手及び溶接継手を除く) ※図示による ・</p>																							

8 2 耐震 改修 工事  コン クリ ート 工事	6 圧接完了後の試験	<p style="text-align: right;">(8. 3. 8)</p> <p>試験</p> <p>※超音波探傷試験</p> <p>・引張試験</p> <p>試験ロットは、1組の作業班が1日に行った圧接箇所とする。なお、200箇所を超えるときは200箇所ごととする。</p>																					
	7 割裂補強筋	<p style="text-align: right;">(8. 21. 6) (8. 22. 7)</p> <p>割裂補強筋の適用</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">種類</th> <th style="width: 20%;">材料</th> <th style="width: 15%;">材質</th> <th style="width: 10%;">径</th> <th style="width: 20%;">本数ピッチ等</th> <th style="width: 20%;">適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・スパイラル筋</td> <td>鉄筋コンクリート用棒鋼</td> <td>※SR235</td> <td>※6φ ・9φ</td> <td>スパイラルの径(mm) ( ) スパイラルのピッチ(mm) ( )</td> <td rowspan="2">※図示</td> </tr> <tr> <td>・はしご筋</td> <td>鉄筋コンクリート用棒鋼 (異形鉄筋)</td> <td>※SD295A</td> <td>・D10 ・</td> <td>壁面内方向 ( ) 壁面外方向 ( )</td> </tr> </tbody> </table>					種類	材料	材質	径	本数ピッチ等	適用箇所	・スパイラル筋	鉄筋コンクリート用棒鋼	※SR235	※6φ ・9φ	スパイラルの径(mm) ( ) スパイラルのピッチ(mm) ( )	※図示	・はしご筋	鉄筋コンクリート用棒鋼 (異形鉄筋)	※SD295A	・D10 ・	壁面内方向 ( ) 壁面外方向 ( )
	種類	材料	材質	径	本数ピッチ等	適用箇所																	
	・スパイラル筋	鉄筋コンクリート用棒鋼	※SR235	※6φ ・9φ	スパイラルの径(mm) ( ) スパイラルのピッチ(mm) ( )	※図示																	
	・はしご筋	鉄筋コンクリート用棒鋼 (異形鉄筋)	※SD295A	・D10 ・	壁面内方向 ( ) 壁面外方向 ( )																		
	1 コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度	<p style="text-align: right;">(8. 1. 3) (8. 1. 4)</p> <p>※普通コンクリート</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 15%;">設計基準強度 Fc (N/mm<sup>2</sup>)</th> <th style="width: 15%;">気乾単位容積 質量(t/m<sup>3</sup>)</th> <th style="width: 10%;">スラブ<sup>°</sup> (cm)</th> <th style="width: 60%;">適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※ 24</td> <td>※2.3程度</td> <td>15</td> <td rowspan="2">建物躯体(基礎、地中梁、土間スラブ<sup>°</sup>部、建物内土間コンクリートを含む)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>・ 21</td> <td>※2.3程度</td> <td>・15 ・18</td> <td>建物躯体(上記以外)</td> </tr> </tbody> </table>					設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	気乾単位容積 質量(t/m <sup>3</sup> )	スラブ <sup>°</sup> (cm)	適用箇所	※ 24	※2.3程度	15	建物躯体(基礎、地中梁、土間スラブ <sup>°</sup> 部、建物内土間コンクリートを含む)			18	・ 21	※2.3程度	・15 ・18	建物躯体(上記以外)		
	設計基準強度 Fc (N/mm <sup>2</sup> )	気乾単位容積 質量(t/m <sup>3</sup> )	スラブ <sup>°</sup> (cm)	適用箇所																			
	※ 24	※2.3程度	15	建物躯体(基礎、地中梁、土間スラブ <sup>°</sup> 部、建物内土間コンクリートを含む)																			
		18																					
・ 21	※2.3程度	・15 ・18	建物躯体(上記以外)																				
2 コンクリートの種類	<p>種類</p> <p>※I類(JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)</p> <p>・II類(JIS A 5308に適合したコンクリート)</p>																						
3 セメント	<p>種類</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">セメントの種類</th> <th style="width: 50%;">適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・高炉セメントB種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>					セメントの種類	適用箇所	※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種		・高炉セメントB種													
セメントの種類	適用箇所																						
※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種																							
・高炉セメントB種																							
4 骨材	<p style="text-align: right;">(8. 2. 5)</p> <p>使用骨材のアルカリシリカ反応による区分</p> <p>※A      ・B</p>																						
5 混和材料	<p>※混和剤</p> <p>混和剤の種類      ※改修標準仕様書8.2.5(d)(1)による      ・</p> <p style="text-align: right;">(8. 2. 5)</p>																						
6 無筋コンクリート	<p style="text-align: right;">(8. 2. 5)</p> <p>セメントの種類</p> <p>※普通ポルトランドセメント又は混合セメントA種</p> <p>・高炉セメントB種</p> <p>(8. 11. 1)</p> <p>設計基準強度Fc(N/mm<sup>2</sup>)      ※18      ・</p> <p>スラブ      ※15又は18</p> <p>適用箇所      ※標準仕様書6.14.1(e)</p>																						
7 ひび割れ誘発目地、打継目地	<p>目地寸法</p> <p>※標準仕様書9.7.3による      ・</p> <p>間隔、位置、形状</p> <p>※図示による( )</p> <p>ひび割れ誘発目地、打継目地の深さ寸法は、躯体外側の打増し厚さ部で処理する。</p>																						



8 3 耐震 改修 工事 鉄骨 工事	8 コンクリートの仕上り	合板せき板を用いる打放し仕上げ (8. 1. 4) (8. 2. 7)																								
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>種 別</th> <th>適 用 箇 所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ A 種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>※B 種</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ C 種</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種 別	適 用 箇 所	・ A 種		※B 種		・ C 種																	
	種 別	適 用 箇 所																								
	・ A 種																									
	※B 種																									
	・ C 種																									
	9 打増し厚さ (打放し仕上げ部)	外部に面するコンクリート打放し仕上げの打増し厚さ ※20mm ・ 図示による ( ) 外装タイル後張り面のコンクリートの打増し厚さ ※20mm ・ 図示による ( )	(8. 7. 8)																							
	10 型枠	せき板の材料及び厚さ ※合板 (厚さ※12mm ・ mm) スリーブの材料 ※改修標準仕様書 8. 2. 7(g) (2) (i) 又は (ii) による	(8. 2. 7)																							
	11 型枠の加工及び組み立て	シアコネクターをセパレーターとして使用 適用箇所 ・ 図示による ( )	(8. 7. 8)																							
	12 コンクリートの打込み工法等	部位毎のコンクリートの打設工法の指定 <table border="1"> <thead> <tr> <th>補強工法</th> <th>打設工法</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 ・ 柱補強工事</td> <td>・ 流込み工法 ・ 圧入工法 ・ 工法指定なし</td> <td>・ 全ての増設壁 ・ 図示 ・</td> </tr> </tbody> </table>	補強工法	打設工法	適用箇所	・ 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 ・ 柱補強工事	・ 流込み工法 ・ 圧入工法 ・ 工法指定なし	・ 全ての増設壁 ・ 図示 ・	(8. 21. 8) (8. 23. 5)																	
	補強工法	打設工法	適用箇所																							
	・ 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事 ・ 柱補強工事	・ 流込み工法 ・ 圧入工法 ・ 工法指定なし	・ 全ての増設壁 ・ 図示 ・																							
1 鉄骨製作工場	製作工場の加工能力 ※建築基準法第77条56の規定に基づき国土交通大臣から認可を受けた指定性能評価機関として認定を受けた(株)日本鉄骨評価センター及び(株)全国鉄骨評価機構(旧(社)全国鉄構工業協会)の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定めるつぎのグレードとして、国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ・ Sグレード ・ Hグレード ・ Mグレード ・ Rグレード ・ Jグレード ・ 監督職員が承諾する製作工場。	(8. 1. 5)																								
2 施工管理技術者	・ 適用する ・ 適用しない	(8. 1. 5)																								
3 鋼材	鋼材の材質 <table border="1"> <thead> <tr> <th>材 質</th> <th>適用箇所、形状及び寸法</th> <th>規 格 等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ SS400</td> <td>※図示による</td> <td>※JIS規格による</td> </tr> <tr> <td>・ SSC400</td> <td>※図示による</td> <td>※JIS規格による</td> </tr> <tr> <td>・ SN400A, B, C</td> <td>※図示による</td> <td>※JIS規格による</td> </tr> <tr> <td>・ SN490B, C</td> <td>※図示による</td> <td>※JIS規格による</td> </tr> <tr> <td>・ STK400</td> <td>※図示による</td> <td>※JIS規格による</td> </tr> <tr> <td>・ STKR400</td> <td>※図示による</td> <td>※JIS規格による</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>※図示による</td> <td>※JIS規格による</td> </tr> </tbody> </table>	材 質	適用箇所、形状及び寸法	規 格 等	・ SS400	※図示による	※JIS規格による	・ SSC400	※図示による	※JIS規格による	・ SN400A, B, C	※図示による	※JIS規格による	・ SN490B, C	※図示による	※JIS規格による	・ STK400	※図示による	※JIS規格による	・ STKR400	※図示による	※JIS規格による	・	※図示による	※JIS規格による	(8. 2. 8)
材 質	適用箇所、形状及び寸法	規 格 等																								
・ SS400	※図示による	※JIS規格による																								
・ SSC400	※図示による	※JIS規格による																								
・ SN400A, B, C	※図示による	※JIS規格による																								
・ SN490B, C	※図示による	※JIS規格による																								
・ STK400	※図示による	※JIS規格による																								
・ STKR400	※図示による	※JIS規格による																								
・	※図示による	※JIS規格による																								
4 縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等	高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの縁端距離、ボルト間隔、ボルト径、ゲージ等 ※図示による																									
5 高力ボルト	高力ボルトの区分 ※トルシア形高力ボルト セットの種類 ※2種 (S10T) ・ ・ J I S形高力ボルト セットの種類 ※2種 (F10T) ・ 高力ボルトの径 ※図示による ( ) ・ すべり係数試験 ※行わない ・ 行う 試験方法等 ・ 図示による ( ) ・	(8. 2. 9)																								

6 溶融亜鉛めっき高力ボルト	<p>セットの種類 (8. 2. 9)</p> <p>※1種 (F8T 相当)</p> <p>溶融亜鉛めっき高力ボルトの径 ※図示による ( )</p> <p>摩擦面の処理 (8. 20. 4)</p> <p>・ ※ブラスト処理 (表面粗度 50 <math>\mu</math>mRz 以上)</p> <p>・ りん酸塩処理</p> <p>すべり耐力等の確認方法 ・ 図示による ( )</p>
7 普通ボルト	<p>標仕 &lt;7. 2. 3&gt;</p> <p>ボルト及びナットの材料等</p> <p>※標準仕様書 表 7. 2. 3 による</p> <p>・ 標準仕様書 表 7. 2. 3 (JIS 付属書品) 又は JIS 本体規格品 (ISO 規格) による (JIS 本体規格品による場合は、ボルトの種類を呼び径六角ボルト又は全ねじボルト、強度区分を 4. 5 又は 4. 8 の鋼製とし、ナットの種類を六角ナット-C の鋼製とする。なお、呼び径六角ボルトの軸径の最大寸法は、ボルトの径の値以下とする。)</p> <p>座金</p> <p>※標準仕様書 7. 2. 3(d) による</p> <p>ボルトの径</p> <p>※図示による ( )</p>
8 アンカーボルト	<p>標仕 &lt;7. 2. 4&gt; &lt;7. 10. 3&gt;</p> <p>適用</p> <p>・ 構造用アンカーボルト</p> <p>セットの種類 (JIS B 1220)</p> <p>・ ABR400 ・ ABR490</p> <p>形状、寸法</p> <p>・ 図示による ( )</p> <p>・ 建方用アンカーボルト</p> <p>種類 ・ SS400</p> <p>アンカーボルト及びナットのねじの種類、規格、ねじの等級の規格及び仕上げ</p> <p>※標準仕様書 表 7. 2. 3 による</p> <p>形状、寸法 ・ 図示による ( )</p> <p>保持及び埋込み方法</p> <p>・ 構造用 ※図示による ( )</p> <p>・ 建方用 ・ 標準仕様書 表 7. 10. 1 (・ A 種 ・ B 種 ・ C 種) による</p> <p>適用箇所</p> <p>・ 構造用 : ( )</p> <p>・ 建方用 : ( )</p>
9 溶接材料	<p>(8. 2. 10)</p> <p>※改修標準仕様書 8. 2. 10(a) (b) による</p> <p>・ 改修標準仕様書 8. 2. 10(a) (b) 以外の溶接材料</p> <p>材料及び使用箇所 ・ 図示による ( )</p> <p>(8. 13. 2)</p> <p>監督職員による現寸検査</p> <p>・ 行わない</p> <p>・ 行う</p> <p>既存建物と取り合う箇所がある場合は現場実測の上、作成を行う。</p>
10 製作精度	<p>(8. 13. 3)</p> <p>※(一社)日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則 6 [鉄骨精度検査基準] による</p>
11 仮組	<p>(8. 13. 10)</p> <p>・ 実施する (範囲 : ※図示による ( )</p> <p>・ 実施しない</p>

<p>12 溶接技能者の技 量付加試験</p>	<p>・実施する ( ) ・実施しない</p> <p>開先の形状 ※図示による</p> <p>スラップの形状 ※図示による</p> <p>エンドタブの切除する部分 ・図示による ( )</p> <p>溶接部の余盛り高さ ※JASS 6 付則 6 [鉄骨精度検査基準] 付表 3 [溶接] による</p> <p>・低応力高サイクル疲労を受ける部位 ・図示による ( )</p>	<p>(8. 15. 3)</p> <p>(8. 15. 4)</p>																																
<p>13 溶接部の試験</p>	<p>※完全溶込み溶接部の超音波探傷試験</p> <p>・工場溶接の場合 ※全数試験</p> <p>・工事現場溶接の場合 ※全数試験</p> <p>突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査 独立行政法人建築研究所監修「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補修マニュアル」による</p> <p>・抜き取り検査① ※抜き取り検査②</p>	<p>(8. 15. 11)</p>																																
<p>14 錆止め塗装</p>	<p>塗料の種類別</p> <p>・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブの内面（鉄骨に溶接されたものに限る） ※改修標準仕様書 表 7.3.1 A種</p> <p>・耐火被覆材の接着する面への塗装 適用箇所 図示による ( )</p> <p>塗料の種類別</p> <p>・改修標準仕様書 表 7.3.1 ( ) 種</p> <p>・改修標準仕様書 表 7.3.2 ( ) 種</p> <p>種類及び性能</p> <table border="1" data-bbox="416 1301 1310 1720"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材料・工法</th> <th>性能（耐火時間）</th> <th>適用箇所（部位・部分）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">・耐火材吹付</td> <td>・乾式 吹付ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・半乾式 吹付ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・湿式ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・耐火板張り</td> <td>・繊維混入 けい酸カルシウム板</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・耐火材巻付け</td> <td>・高断熱ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ラス張りモルタル塗り</td> <td>—</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>材料及び工法は、建築基準法に基づき定められたもの又は認定を受けたものとする</p>	種類	材料・工法	性能（耐火時間）	適用箇所（部位・部分）	・耐火材吹付	・乾式 吹付ロックウール			・半乾式 吹付ロックウール			・湿式ロックウール			・耐火板張り	・繊維混入 けい酸カルシウム板			・			・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール			・			・ラス張りモルタル塗り	—			<p>(8. 17. 3)</p> <p>(8. 18. 2～7)</p>
種類	材料・工法	性能（耐火時間）	適用箇所（部位・部分）																															
・耐火材吹付	・乾式 吹付ロックウール																																	
	・半乾式 吹付ロックウール																																	
	・湿式ロックウール																																	
・耐火板張り	・繊維混入 けい酸カルシウム板																																	
	・																																	
・耐火材巻付け	・高断熱ロックウール																																	
	・																																	
・ラス張りモルタル塗り	—																																	
<p>15 建方精度</p>	<p>※(一社)日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則 6 [鉄骨精度検査基準] 付表 [工事現場] による</p>	<p>標仕 &lt;7. 10. 2&gt;</p>																																

	16 亜鉛溶融めっき 工法	(8. 20. 3)										
	種別等											
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>亜鉛メッキの種別</th> <th>材 料</th> <th>適用箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A種 (HDZ55)</td> <td>最小の板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板</td> <td rowspan="3">※構造図による ・</td> </tr> <tr> <td>B種 (HDZ45)</td> <td>最小の板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板</td> </tr> <tr> <td>C種 (HDZ35)</td> <td>普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小の板厚 1.6mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板</td> </tr> </tbody> </table>	亜鉛メッキの種別	材 料	適用箇所	A種 (HDZ55)	最小の板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板	※構造図による ・	B種 (HDZ45)	最小の板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板	C種 (HDZ35)	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小の板厚 1.6mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板	
亜鉛メッキの種別	材 料	適用箇所										
A種 (HDZ55)	最小の板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板	※構造図による ・										
B種 (HDZ45)	最小の板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板											
C種 (HDZ35)	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小の板厚 1.6mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板											
8   4	1 あと施工アンカー	(8. 2. 4)										
あと 施 工 ア ン カ ー 工 事	あと施工アンカーの種類 ・金属系アンカー（耐震補強用） セット方式 ※本体打込み式改良型 接合金の種類、径、長さ ・図示による（                    ） アンカー本体の径及び埋込み長さ ・図示による（耐震補強共通図） ※接着系アンカー セット方式 ※カプセル型回転・打撃式 接着剤の品質                   ※有機系                   ・無機系 アンカー筋の種類 ※改修標準仕様書 表 8.2.1 の異形鉄筋 アンカー本体の径及び埋込み長さ ※図示による アンカー筋の新設壁内への定着の長さ ※図示による											
	2 穿孔前の埋込み配 管等の探査	(8. 12. 2)										
	探査方法 ※鉄筋探知機（金属探知機）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う ・はつり出しによる											
	3 施工確認試験	(8. 12. 5)										
	試験方法 ※抜取試験 確認強度 ※図示による											
8   5	1 柱底均しモルタル 及びグラウト材	(8. 2. 11)										
グ ラ ウ ト 工 事	・柱底均しモルタル ※無収縮モルタル ・グラウト材 ※無収縮グラウト材 プレミックス及び現場調合形 材質等 (8. 21. 9) 増設の現場打ち鉄筋コンクリート壁と既存構造体との隙間の処理方法 <table border="1"> <thead> <tr> <th>部位</th> <th>処理方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・ 増設壁の上部 ・</td> <td>※グラウト材を注入 ・</td> </tr> </tbody> </table>	部位	処理方法	・ 増設壁の上部 ・	※グラウト材を注入 ・							
部位	処理方法											
・ 増設壁の上部 ・	※グラウト材を注入 ・											
8   6	1 連続繊維シート	(8. 2. 12)										
連 続 繊 維 補 強 工 事	・連続繊維補強工法 ※（一財）日本建築防災協会「2010年改訂版 連続繊維補強材を用いた既存鉄筋コンクリート造及び鉄骨鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計・施工指針」第4章補強工事の施工による工法又は同等の性能を有する工法 連続繊維の材料 ・炭素繊維                   ・アラミド繊維                   ・ガラス繊維 連続繊維の材質 引張強度（含浸硬化後） ・（            ）N/m <sup>2</sup> ・ ヤング係数（含浸硬化後） ・（            ）N/m <sup>2</sup> ・											

8 7 耐震スリット新設工事	1 耐震スリット	耐震スリットの設置箇所 方 式 形状（幅及び深さ共） 耐火、遮音、防水処理への配慮 耐震スリット部詳細	・ 図示による ・ 完全 ・ 部分 ・ 図示による ・ 図示による ・ 図示による	(8. 25. 2)
	2 壁切断前の埋込み配管等の探査	探査方法 ※鉄筋探知機（金属探知器）により探査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う ・ はつり出しによる		(8. 12. 2)
8 8 基礎工事	1 埋戻し及び盛土	埋戻し及び盛土の種別 ・ A種 適用場所（ ） ・ B種 適用場所（ ） ・ C種 適用場所（ ） 土質（ ） 受渡場所（ ） ・ D種 （細粒分（75μm以下）の含有率（重量百分率）の上限を50%未満とする） 適用場所（ ）		(8. 28. 3)
	2 山留めの有無	山留めの有無 ・ 有 ・ 無		
	3 山留めの存置	山留めの存置 ・ 全て撤去 ・ 存置 存置範囲（※図示（ ））		
	4 砂利地業	材料 ※再生クラッシュラン ・ 切込み砂利又は切込み碎石		(8. 2. 14)
	5 捨てコンクリート地業	厚さ及び適用範囲		(8. 28. 4)
		厚さ	適用場所	
※60		・ 基礎スラブ下 ・ 基礎梁下 ・ 土間コンクリート下 ・ 土に接するスラブ下		
6 床下防湿層	厚さ及び適用範囲		標仕〈4. 6. 2〉	
	厚さ	適用場所		
	※50	・ 基礎スラブ下 ・ 基礎梁下 ・ 土に接するスラブ下		
	材料 ・ ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上 ・ 施工範囲 ・ 図示（ ）			

1 アスベスト含有  
建材の除去工事

(9. 1. 1)

施工調査

※アスベスト含有建材の事前調査

工事着手に先立ち、目視及び貸与する設計図書等によってアスベストを含有している吹き付け材、成形板、建築材料等の使用の有無について調査する

調査範囲 ( ・ 図示 )  
貸与資料 ( ・ )

・分析によるアスベスト建材の調査

分析対象

アクチノライト、アモサイト、アンソフィライト、クリソタイル、クロシドライト、及びトレモライト

分析方法

材料名	定性分析 (JIS A 1481-2)	定量分析 (JIS A 1481-3)
	・箇所数 ( )	・箇所数 ( )
	・箇所数 ( )	・箇所数 ( )
	・箇所数 ( )	・箇所数 ( )

サンプル数 1箇所あたり3サンプル

採取箇所 ・ 図示 ・

アスベスト粉じん濃度測定

測定時期、場所及び測定点

適用	測定名称	測定時期	測定場所	測定点 (各施工箇所ごと)
・	測定 1	処理作業前	処理作業室内	・計 点
・	測定 2		調査対象室外部の付近	・計 点
・	測定 3	処理作業中	処理作業室内 v	・計 点
・	測定 4		負圧・除じん装置の排出 吹出し口	出口吹出し風速 1m/sec 以下の位置 ・計 点
・	測定 5		処理作業室外 (敷地境界)	・計 点
・	測定 6	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	・計 点
・	測定 7	処理作業後シート 撤去後 1 週間 以降	処理作業室内	・計 点
・	測定 8		調査対象室外部の付近	・計 点

測定方法

	測定 3	測定 4	測定 5
メンブレンフィルタ直径 (mm)	25	25	47
試料の吸引流量 (L/min)	・ 1	・ 5	・ 10
試料の吸引時間 (min)	・ 5	・ 120	・ 240

アスベスト含有建材の処理

・アスベスト含有吹き付け材の除去

除去対象範囲 ・ 図示

除去工法 ※改修標準仕様書 9.1.3(b)(1)による

除去したアスベスト含有吹き付け材等の飛散防止

※密封処理 ※湿潤化 ・セメント固化

除去したアスベスト含有吹き付け材等の処分

・埋立処分 (管理型最終処分場) ・中間処理 (溶融施設)

- ・アスベスト含有保温材の除去  
除去対象範囲 ・図示  
除去したアスベスト含有保温材の処分  
・埋立処分（管理型最終処分場） ・中間処理（熔融施設）
- ・アスベスト含有成形板の除去  
除去対象範囲 ・図示  
除去したアスベスト含有成形板の処分
- ・アスベスト含有せっこうボード  
※埋立処分（管理型最終処分場）
- ・アスベスト含有せっこうボードを除くアスベスト含有成形板  
・埋立処分（管理型最終処分場） ・中間処理（熔融施設）

2 断熱アスファルト防水改修工事

(9. 2. 1~3)

改修特記仕様書第3章による

3 外断熱改修工事

断熱材

(9. 3. 2)

断熱材の種類	施工箇所	厚さ (mm)	品質
・ビーズ法ポリスチレンフォーム	・	・	・
・押出法ポリスチレンフォーム	・	・	・
・硬質ウレタンフォーム	・	・	※A種 ・

ホルムアルデヒド放散量  
※F☆☆☆☆

外壁材

種類	防火性能	備考
・		

既存外壁の措置

- 既存外壁仕上材の撤去 ・あり ・なし
- 下地面の清掃 ・行う ・行わない
- 欠損部の改修工法 ・改修標準仕様書 4. 1. 4 による

工法

- 通気層の有無 ・あり ( mm) ・なし
- 断熱材の施工 ※断熱材製造所の仕様による
- 外装材の施工 ・外装材製造所の仕様による
- 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法

4 ガラス改修工事

(9. 4. 2)

複層ガラス

品種	断熱性	日射遮へい性	厚さ
・断熱複層ガラス	・1種	U1	・図示 ・
	・2種	U2	
	・3種	・U-3-1 ・U-3-2	
・			

(9. 5. 2~4)

フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒド放散量  
※F☆☆☆☆

・断熱材打込み工法

種 類	厚さ (mm)
・ピンス法 <sup>ホ</sup> スチレンフォーム断熱材	・
・押出法 <sup>ホ</sup> スチレンフォーム断熱材	・
・硬質ウレタンフォーム断熱材	・
・フェノールフォーム断熱材	・
・ピンス法 <sup>ホ</sup> スチレンフォーム保温材	・
※押出法 <sup>ホ</sup> スチレンフォーム保温材 (スキンなし)	・保温板 (2種 b)
	・保温板 (3種 b)
	・
・A種硬質ウレタンフォーム保温材	・
・フェノールフォーム保温材 (3種 2号を除く)	・

施工箇所 ・ 図示 ・

・断熱材現場発泡工法

断熱材の種類 ※A種 1 ・ B種 1  
 厚さ(mm) ・ 25 ・ 30 ・  
 施工箇所 ・ 図示 ・

・断熱材後張り工法

断熱材の種類 ・  
 厚さ(mm) ・

5 屋上緑化改修工事

(9. 6. 1~3)

植栽基盤及び材料

屋上緑化軽量システム

・適用する ・適用しない  
 芝及び地被類の樹種並びに種類等

※図示 ・

見切り材、舗装材、排水孔、マルチング材等

※図示 ・

工法

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ・

かん水装置 ・設置する  
 (種類 ・ ・ ・ )

既存保護層の撤去 ・行う ・行わない

6 透水性アスファルト  
舗装改修工事

(9. 7. 2~7, 9)

既存舗装の撤去及び再利用 ※図示 ・

路床

路床の材料

種別	材料	厚さ(mm)
・盛土	・A種 ・B種 ・C種 ・D種 ・建設汚泥から再生した処理土	・ 図示 ・
・凍上抑制層	・再生クラッシャーラン ・クラッシャーラン ・切込み砂利 ・砂 ・	・ 図示 ・
・フィルター層	・砂 ・	・ 図示 ・



路床安定処理

・ 添加材料による安定処理

- 種類 ・ 普通ポルトランドセメント  
 ・ 高炉セメントB種  
 ・ ファイッシュセメントB種  
 ・ 生石灰 ( )  
 ・ 消石灰 ( )

添加量 kg (目標 CBR 3 以上 )

目標 CBR を満足する添加量の確認方法

- ・ 安定処理土の CBR 試験

・ ジオテキスタイル

- 単位面積質量 ・ 60kg/m<sup>2</sup> 以上 ・  
 厚さ(mm) ・ 0.5~1.0 ・  
 引張強さ ・ 98N/5cm (10kgf/5cm) 以上 ・  
 透水係数 ・ 1.5 × 10<sup>-1</sup>cm/sec 以上 ・

試験

- 砂の粒度試験 ・ 行う ・ 行わない  
 路床土の支持力比 (CBR) 試験 ・ 行う ・ 行わない  
 現場 CBR 試験 ・ 行う ・ 行わない  
 路床締固め度試験 ・ 行う ・ 行わない

路盤

路盤の厚さ ・ 図示 ・

路盤材料

種類	
砕石	・ クラッシュラン
	・ 粒度調整砕石
再生材	・ クラッシュラン
	・ 粒度調整砕石
・ クラッシュラン鉄鋼スラグ	
・ 粒度調整鉄鋼スラグ	
・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ	

路盤締固め度の試験 ※ 行う ・ 行わない

舗装の構成 ・ 図示 ・

開粒度アスファルト混合物等の抽出試験

- ・ 行う ・ 行わない

舗装の平坦性 ※ 著しい不陸がないもの ・

秋 田 県 建 設 部 営 繕 課